

第2章

高齢者を取り巻く現況と課題

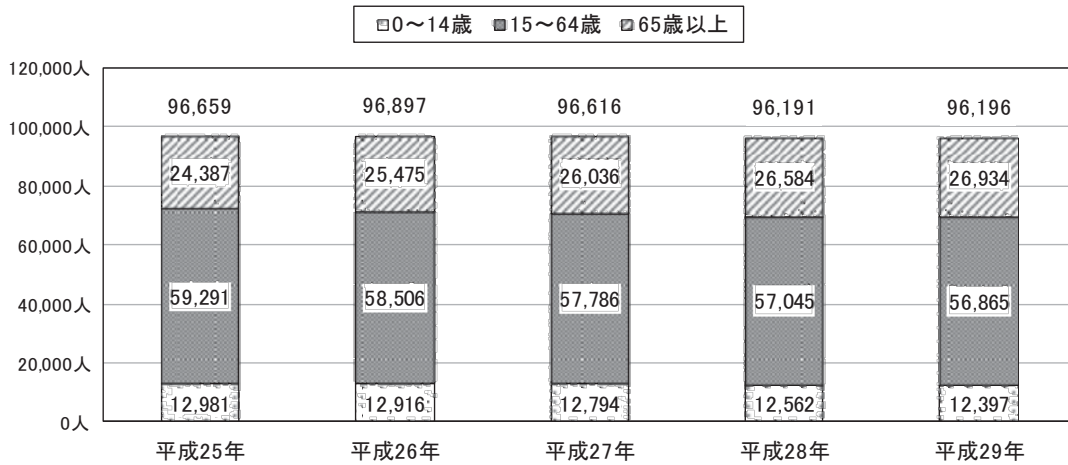
1 高齢者人口等の推移

(1) 年齢3区分別人口及び高齢化率の推移

本市の総人口は、住民基本台帳によると、平成26年以降、ほぼ横ばいの状態にあり、平成29年10月1日現在で96,196人です。

年齢3区分別にみると、0～14歳、15～64歳人口は、減少傾向で推移している一方、65歳以上の高齢者人口は年々増加している状況です。

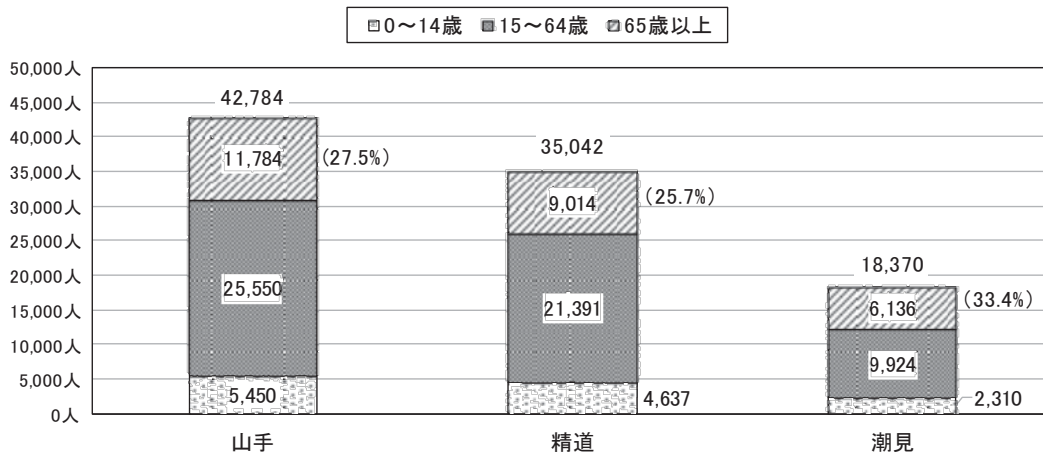
年齢3区分別人口の推移



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

日常生活圏域別の高齢者人口は、山手圏域が最も多く、潮見圏域が最も少ない状況です。高齢化率は、潮見（33.4%）が最も高く、精道（25.7%）が最も低い状況です。

年齢3区分別人口（日常生活圏域別、平成29年）

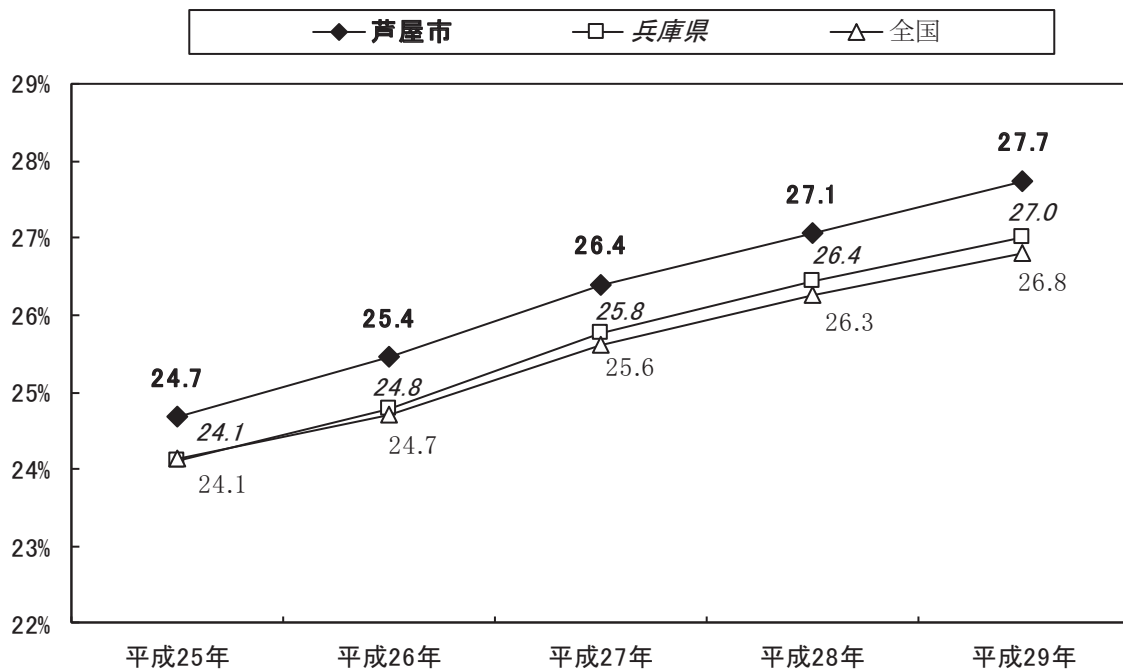


注：（ ）内は高齢化率

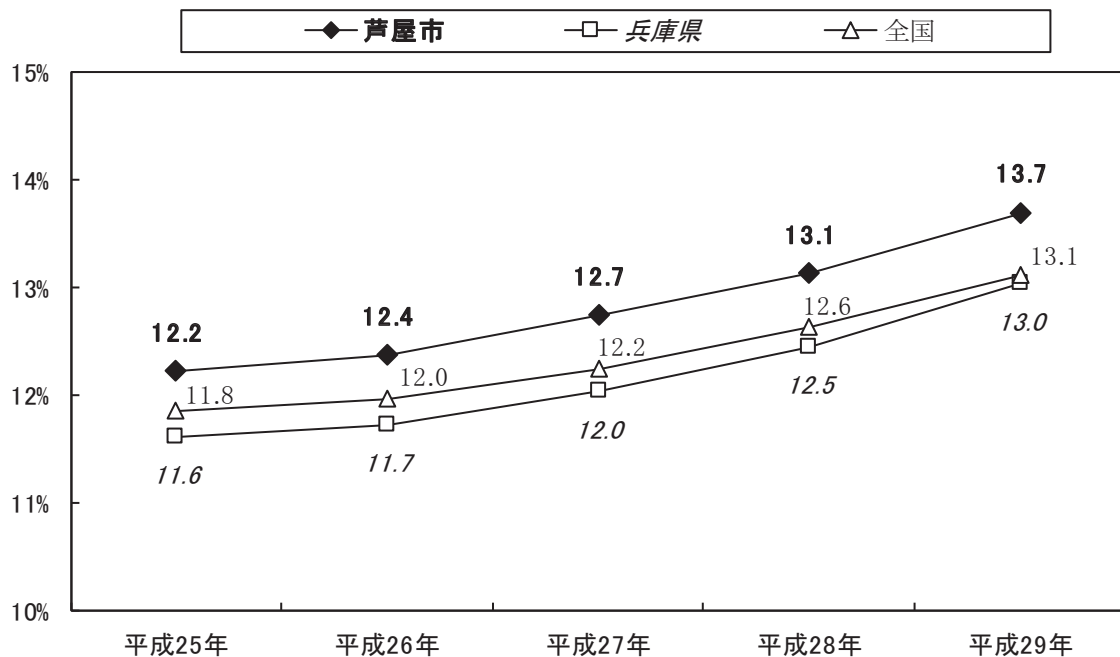
資料：住民基本台帳（平成29年10月1日現在）

本市の高齢化率は全国・兵庫県と比べ、高い状況にあります。
 また、後期高齢化率も全国・兵庫県よりも高い状況です。

高齢化率（高齢者割合）の比較【全国・兵庫県】



後期高齢化率（後期高齢者割合）の全国・兵庫県との比較



注：平成25年のみ3月31日現在。※平成26年調査から調査期日が変更
 資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（各年1月1日現在）

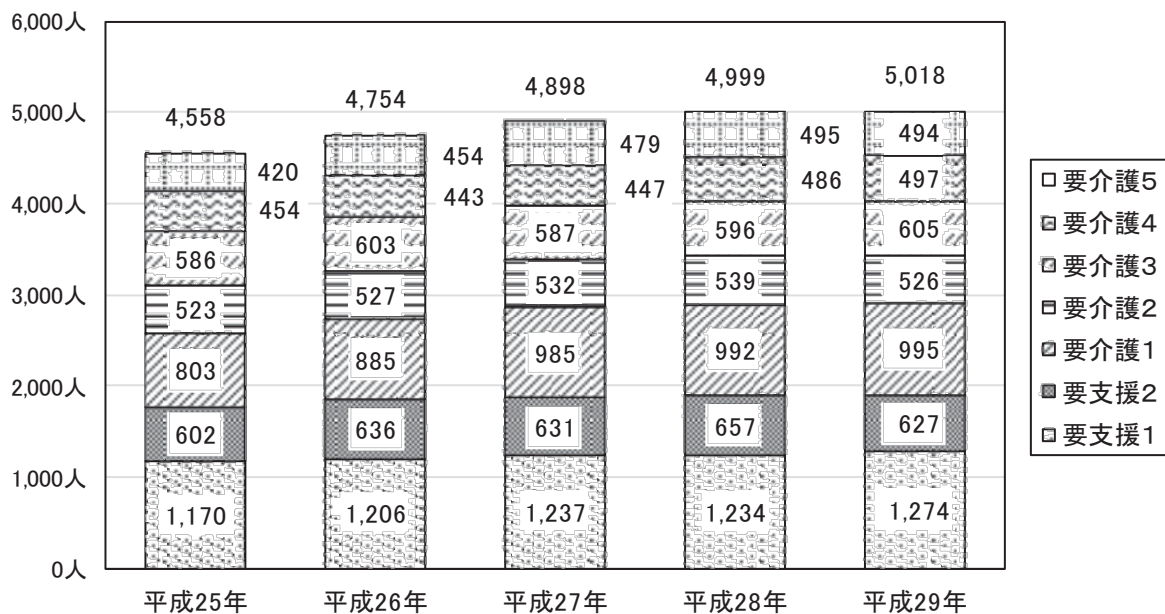
(2) 要支援・要介護認定者の状況

① 要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数は年々増加傾向にあり、平成29年で5,018人となっています。平成25年から要支援・要介護認定者数の増加率（前年比）は、年々低下しており、平成26年4.3%、平成27年3.0%、平成28年2.1%、平成29年では0.4%となっています。

要支援・要介護度別にみると、各年ともに要支援1が多く、平成29年では1,274人、要支援・要介護認定者の25.4%を占めています。

要支援・要介護認定者数の推移



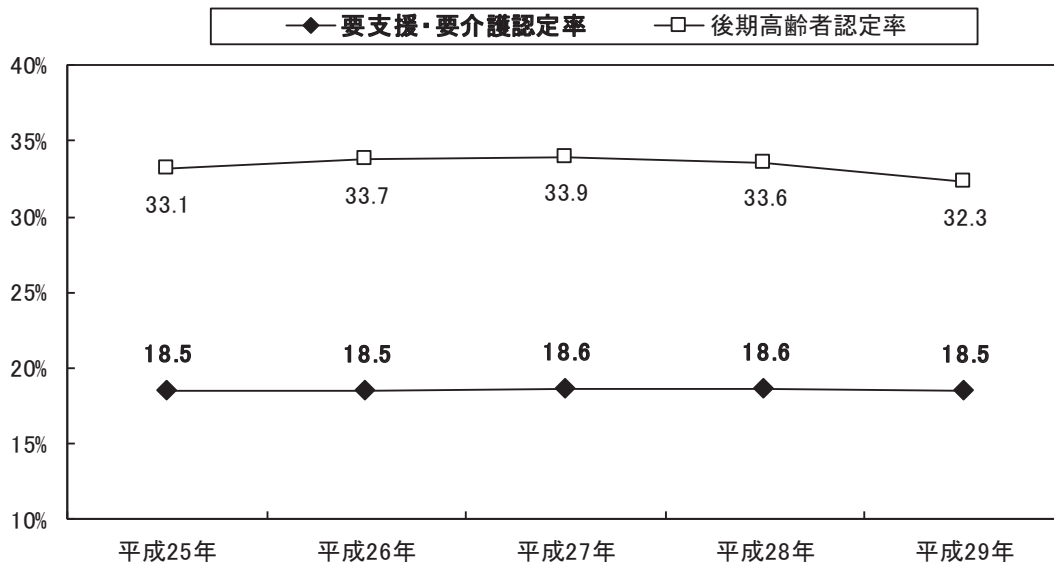
注：平成29年のみ7月月報

資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

要支援・要介護認定者数は年々増加傾向にあります。要支援・要介護認定率はほぼ横ばいで、平成 29 年では 18.5%です。

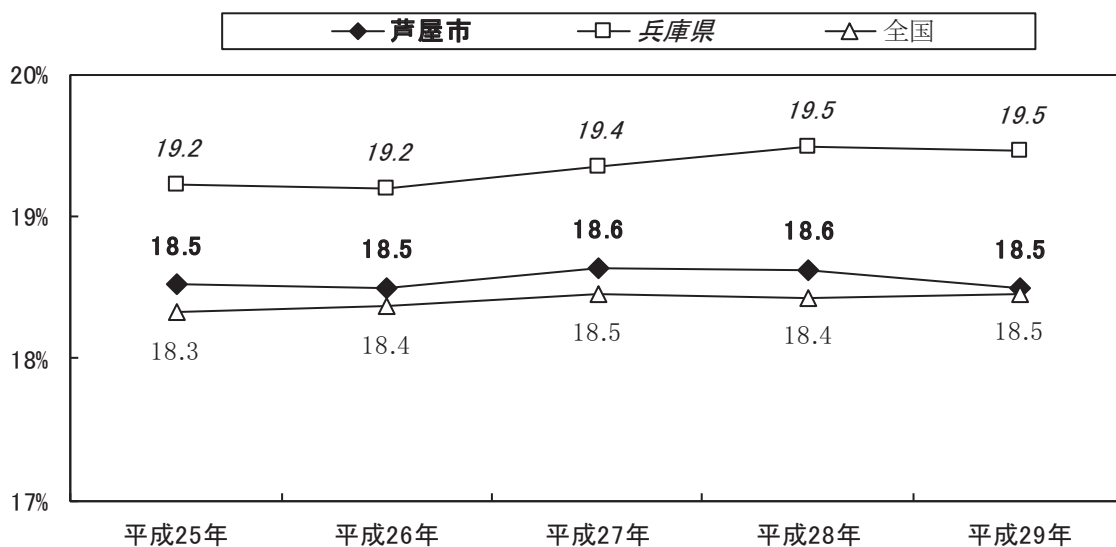
また、後期高齢者の認定率は平成 27 年以降、微減傾向で推移し、平成 29 年では 32.3%となっています。

要支援・要介護認定率の推移



要支援・要介護認定率を全国・兵庫県と比較すると、本市は全国とほぼ同水準、兵庫県より認定率が低くなっています。

要支援・要介護認定率の比較【全国・兵庫県】



注：平成 29 年のみ 7 月末現在

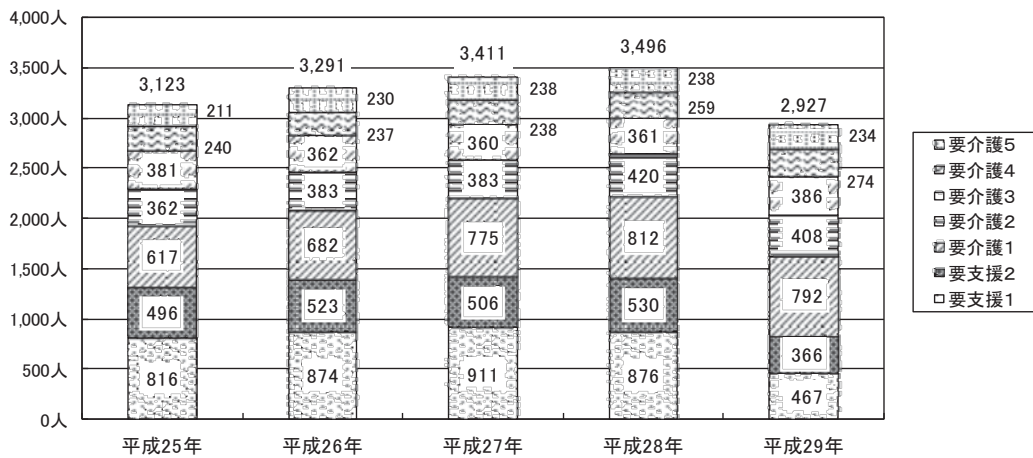
資料：介護保険状況報告（各年 9 月月報）

②居宅サービス受給者数の推移

居宅サービス受給者数は平成28年まで増加傾向で推移し、その後、サービス受給者が介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」という。）に移行したため、平成29年は減少して2,927人となっています。平成25年から居宅サービス受給者数の増加率（前年比）は、年々低下しており、平成26年・5.4%、平成27年・3.6%、平成28年・2.5%、平成29年では反転し-16.3%となっています。

要支援・要介護度別にみると、各年ともに要支援1が多く、平成29年では467人です。

居宅サービス受給者数の推移



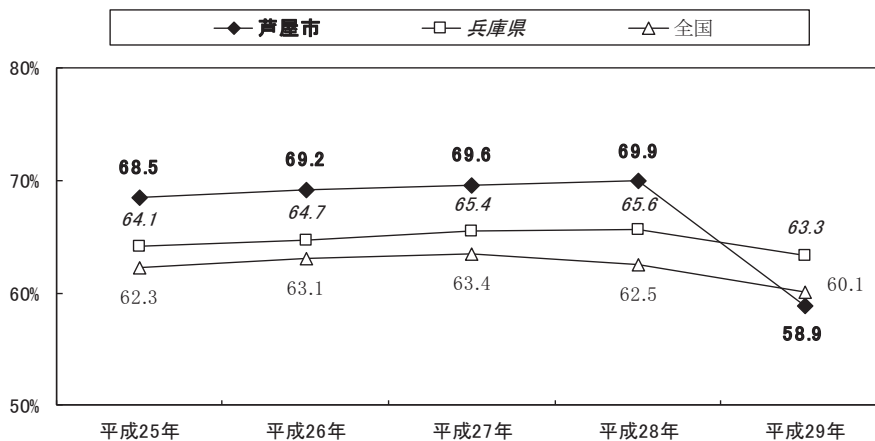
注：平成29年の要支援1・2の受給者数が大きく減少しているのは、平成29年4月から総合事業が開始されたことにより、予防訪問介護と予防通所介護のサービス受給者が総合事業に移行したため。

注：平成29年のみ7月月報【5月利用分】

資料：介護保険状況報告（各年11月月報【9月利用分】）

居宅サービス受給者割合を全国・兵庫県と比較すると、各年ともに全国・兵庫県よりも高い状況でしたが、平成29年度では、全国・兵庫県より低下しています。

要支援・要介護認定者数に対する居宅サービス受給者割合の比較【全国・兵庫県】



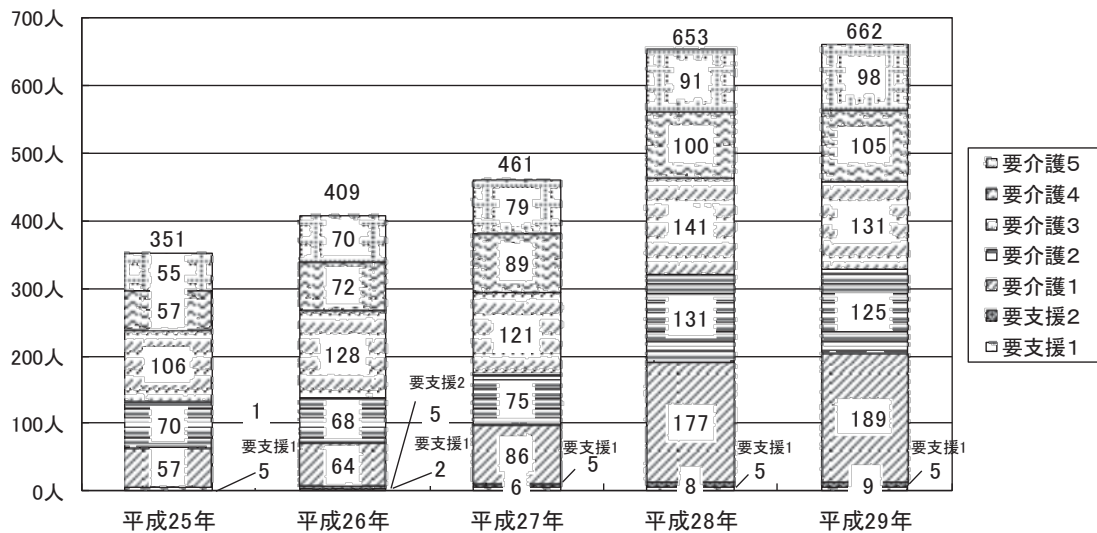
注：平成29年のみ7月月報【5月利用分】，認定者数は5月月報

資料：介護保険状況報告（受給者数は各年11月月報【9月利用分】，認定者数は各年9月月報）

③地域密着型サービス受給者数の推移

地域密着型サービス受給者数は年々増加しており、平成 29 年で 662 人で、平成 25 年に比べて 88.6%増加しています。

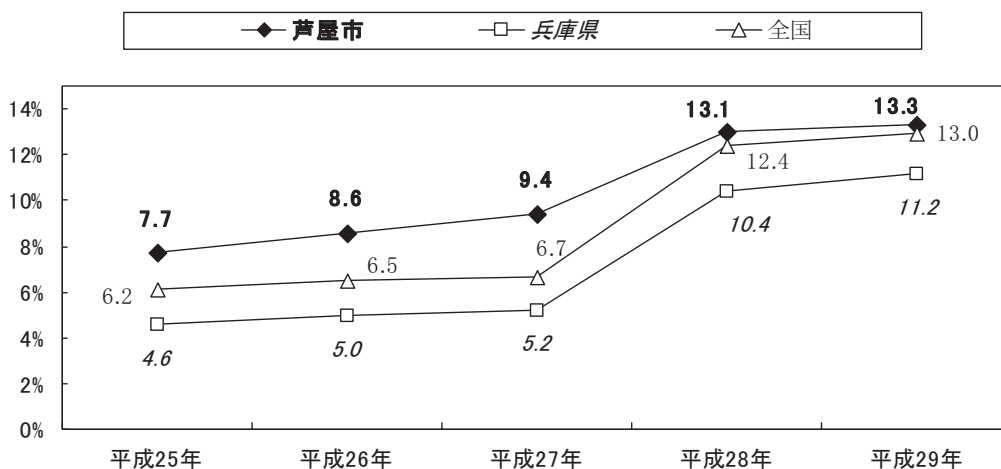
地域密着型サービス受給者数の推移



注：平成 27 年から平成 28 年にかけての増加の主な理由は、定員 18 名以下の通所介護が地域密着型サービスに移行したため。
 注：平成 29 年のみ 7 月月報【5 月利用分】
 資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

地域密着型サービス受給者割合を全国・兵庫県と比較すると、各年ともに受給率が高い状況です。

要支援・要介護認定者数に対する地域密着型サービス受給割合の比較【全国・兵庫県】



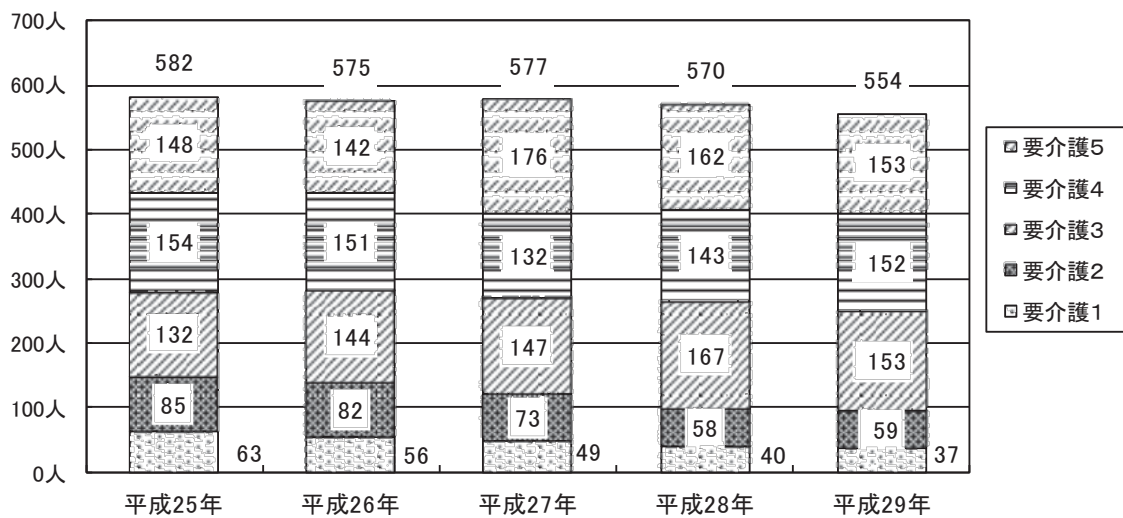
注：平成 27 年から平成 28 年にかけての増加の主な理由は、定員 18 名以下の通所介護が地域密着型サービスに移行したため。
 注：平成 29 年のみ 7 月月報【5 月利用分】、認定者数は 5 月月報
 資料：介護保険状況報告（受給者数は各年 11 月月報【9 月利用分】、認定者数は各年 9 月月報）

④施設サービス受給者数の推移

施設サービス受給者は横ばい傾向にあり、平成 28 年から平成 29 年にかけて減少し、554 人となっています。

施設利用者のうち要介護 4・5 の重度利用者は平成 29 年で 305 人、施設利用者全体の 55.1%であり、平成 25 年の 51.9%（582 人中 302 人）に比べて、重度の利用者が増えている状況です。

施設サービス受給者数の推移

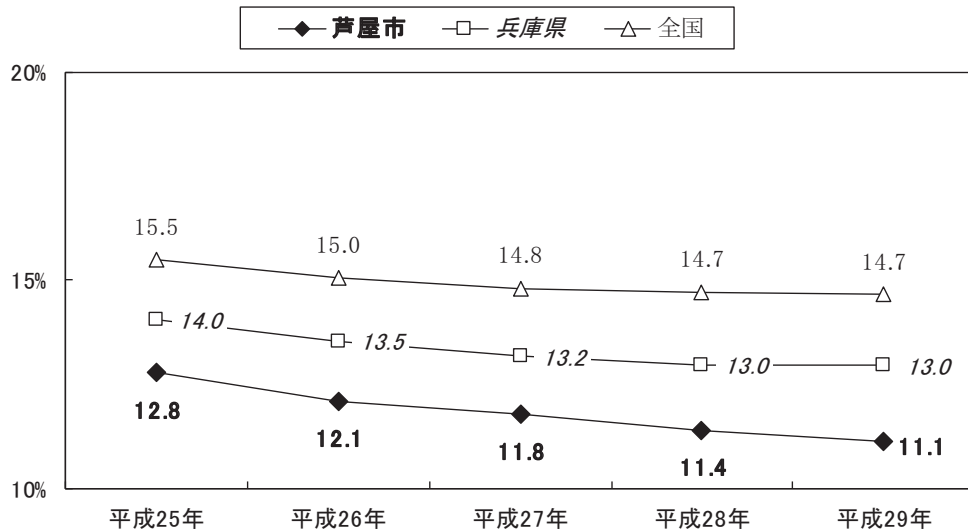


注：平成 29 年のみ 7 月月報【5 月利用分】

資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

施設サービス受給者割合を全国・兵庫県と比較すると、各年ともに全国・兵庫県よりも低い状況です。

要支援・要介護認定者数に対する施設サービス受給割合の比較【全国・兵庫県】

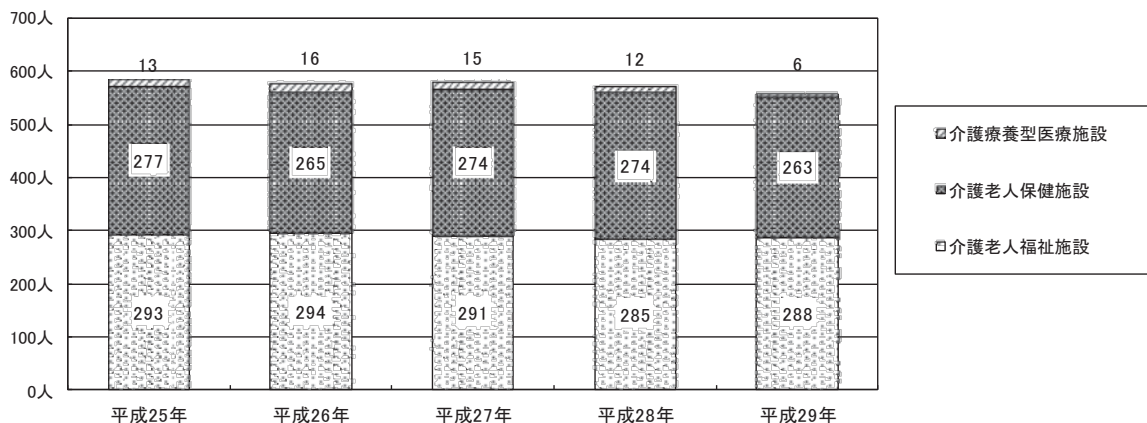


注：平成 29 年のみ 7 月月報【5 月利用分】，認定者数は 5 月月報

資料：介護保険状況報告（受給者数は各年 11 月月報【9 月利用分】，認定者数は各年 9 月月報）

介護保険 3 施設別に利用状況をみると、平成 29 年では、介護老人福祉施設が 288 人、介護老人保健施設が 263 人、介護療養型医療施設が 6 人となっています。

介護保険 3 施設別の受給者数の推移



注：平成 29 年のみ 7 月月報【5 月利用分】

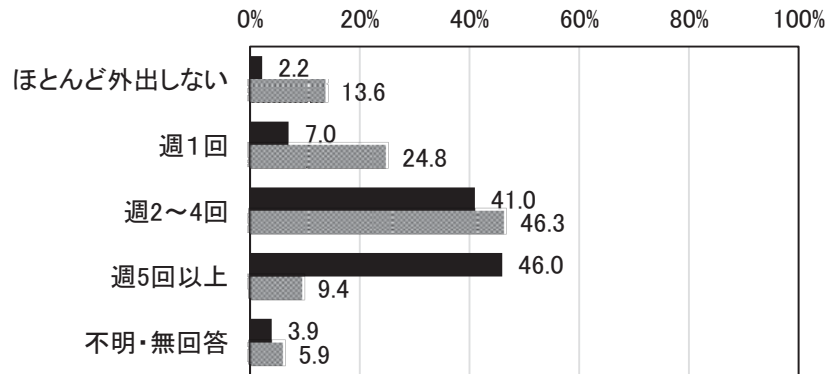
資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

2 アンケート調査結果にみる高齢者等のニーズ

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

①外出の頻度

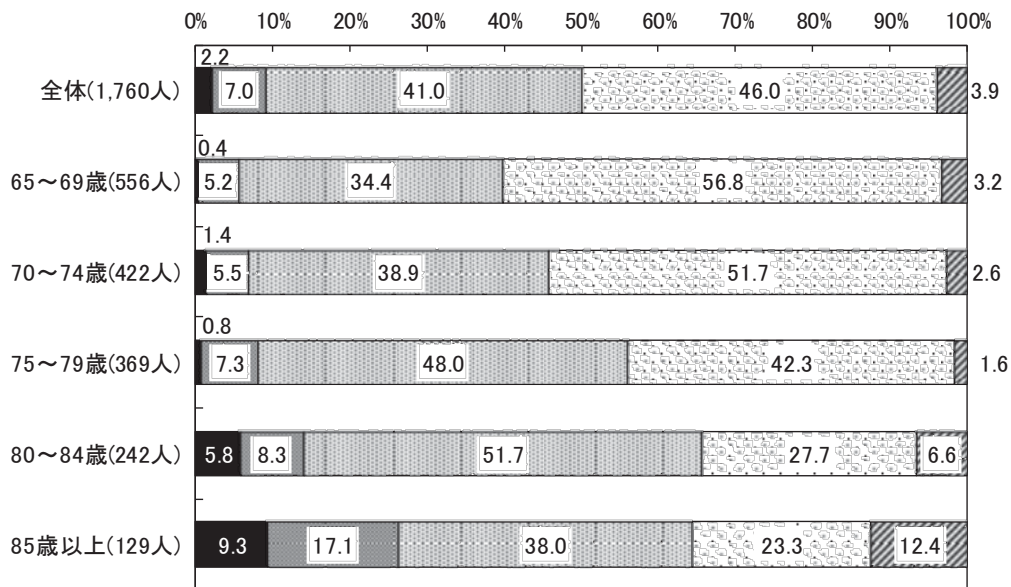
一般高齢者は、「週5回以上」が46.0%で最も多くなっています。要支援認定者は、「週2～4回」が最も多くなっています。



- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

一般高齢者について、年齢別にみると、年齢が高くなるほど「週5回以上」と回答した人が減少しています。ほぼ毎日（「週5回以上」）、外出する人は、75歳以上で50%未満となっています。

■ 年齢別（一般高齢者）



- ほとんど外出しない
- 週1回
- 週2～4回
- 週5回以上
- 不明・無回答

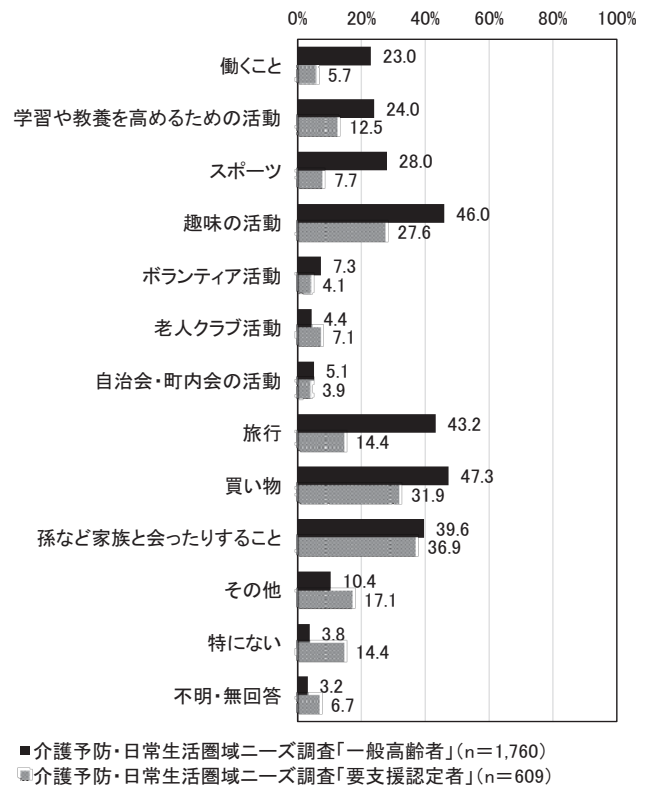
②日常生活の中での楽しみ

一般高齢者は、「買い物」が47.3%で最も多く、次いで「趣味の活動」が46.0%、「旅行」が43.2%となっています。

要支援認定者は、「孫など家族と会ったりすること」が36.9%で最も多く、次いで「買い物」が31.9%、「趣味の活動」が27.6%となっています。

一般高齢者について、年齢別にみると、どの年齢区分も「趣味の活動」「旅行」「買い物」「孫などと会ったりすること」が上位を占めています。

また、年齢が上がるほど、「働くこと」と回答した人が少なくなっています。



■年齢別（一般高齢者）

単位：%

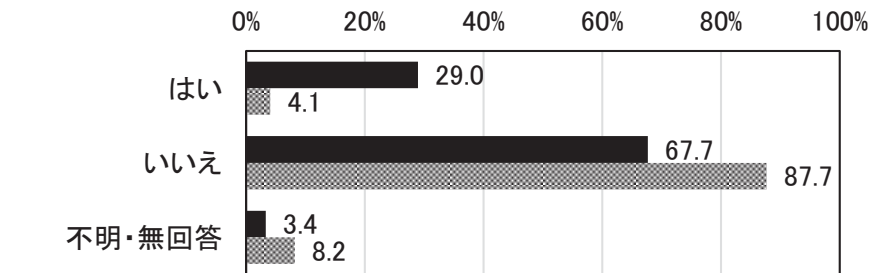
| | 合計 | 働くこと | 学習や教養を高めるための活動 | スポーツ | 趣味の活動 | ボランティア活動 | 老人クラブ活動 | 自治会・町内会の活動 | 旅行 | 買い物 | 孫など家族と会ったりすること | その他 | 特にない | 不明・無回答 |
|--------|-------|------|----------------|------|-------|----------|---------|------------|------|------|----------------|------|------|--------|
| 全体 | 1,760 | 23.0 | 24.0 | 28.0 | 46.0 | 7.3 | 4.4 | 5.1 | 43.2 | 47.3 | 39.6 | 10.4 | 3.8 | 3.2 |
| 65～69歳 | 556 | 28.1 | 21.8 | 28.1 | 47.1 | 6.8 | 1.6 | 3.6 | 47.7 | 48.0 | 40.3 | 9.5 | 3.8 | 2.7 |
| 70～74歳 | 422 | 24.2 | 28.2 | 31.3 | 48.1 | 7.1 | 4.3 | 5.5 | 47.4 | 45.5 | 41.9 | 8.5 | 3.3 | 2.8 |
| 75～79歳 | 369 | 22.5 | 26.8 | 31.2 | 49.9 | 10.8 | 4.3 | 6.5 | 44.4 | 46.1 | 37.9 | 11.4 | 2.4 | 1.1 |
| 80～84歳 | 242 | 12.8 | 21.9 | 23.1 | 43.8 | 5.8 | 8.7 | 3.7 | 37.2 | 55.4 | 38.4 | 11.6 | 3.3 | 5.8 |
| 85歳以上 | 129 | 15.5 | 18.6 | 17.8 | 32.6 | 4.7 | 10.9 | 10.1 | 22.5 | 40.3 | 39.5 | 13.2 | 9.3 | 7.8 |

③就労について

(1)就労状況

一般高齢者は、「はい」(「就労している」)が29.0%となっています。

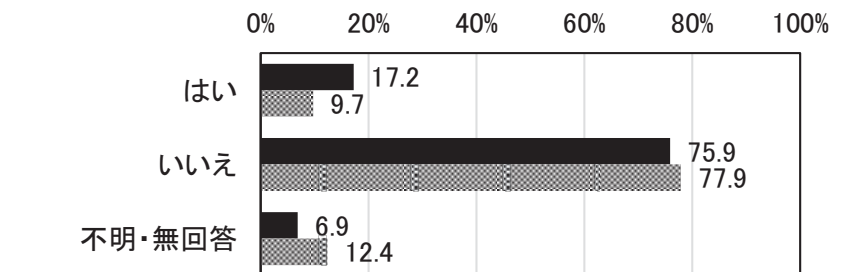
前回調査では、調査対象年齢が60歳以上と異なるため単純比較できませんが、就労状況は大きくは変わっていません(前回調査、一般高齢者29.8%)。



■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
 ※介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

(2)今後の就労意向

(仕事をしていない方)
 一般高齢者、要支援認定者ともに、「いいえ」(就労したくない)が約75%~80%となっています。

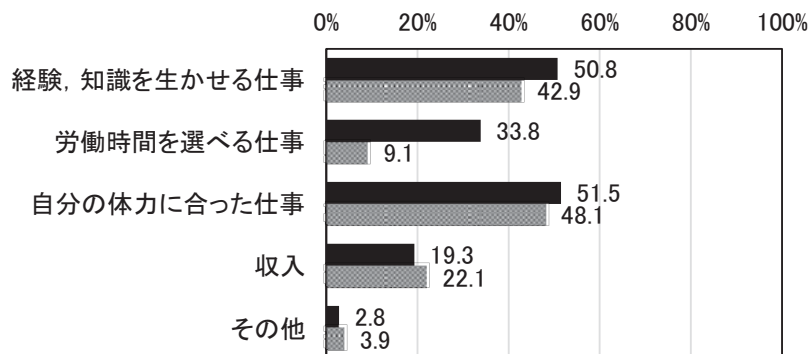


■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,191)
 ※介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=534)

(3)働き方で重視する条件

(「現在、収入のある仕事をしている方」、「今後、収入のある仕事をしたい方」)

一般高齢者、要支援認定者ともに、「自分の体力に合った仕事」、「経験、知識を生かせる仕事」が約40%~50%いて、多くなっています。



■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=715)
 ※介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=77)

一般高齢者について、性別にみると、男性では「経験，知識を生かせる仕事」、女性では「自分の体力に合った仕事」が最も多くなっています。

年齢別にみると、65～69歳では「経験，知識を生かせる仕事」、70～79歳では「自分の体力に合った仕事」が最も多くなっています。

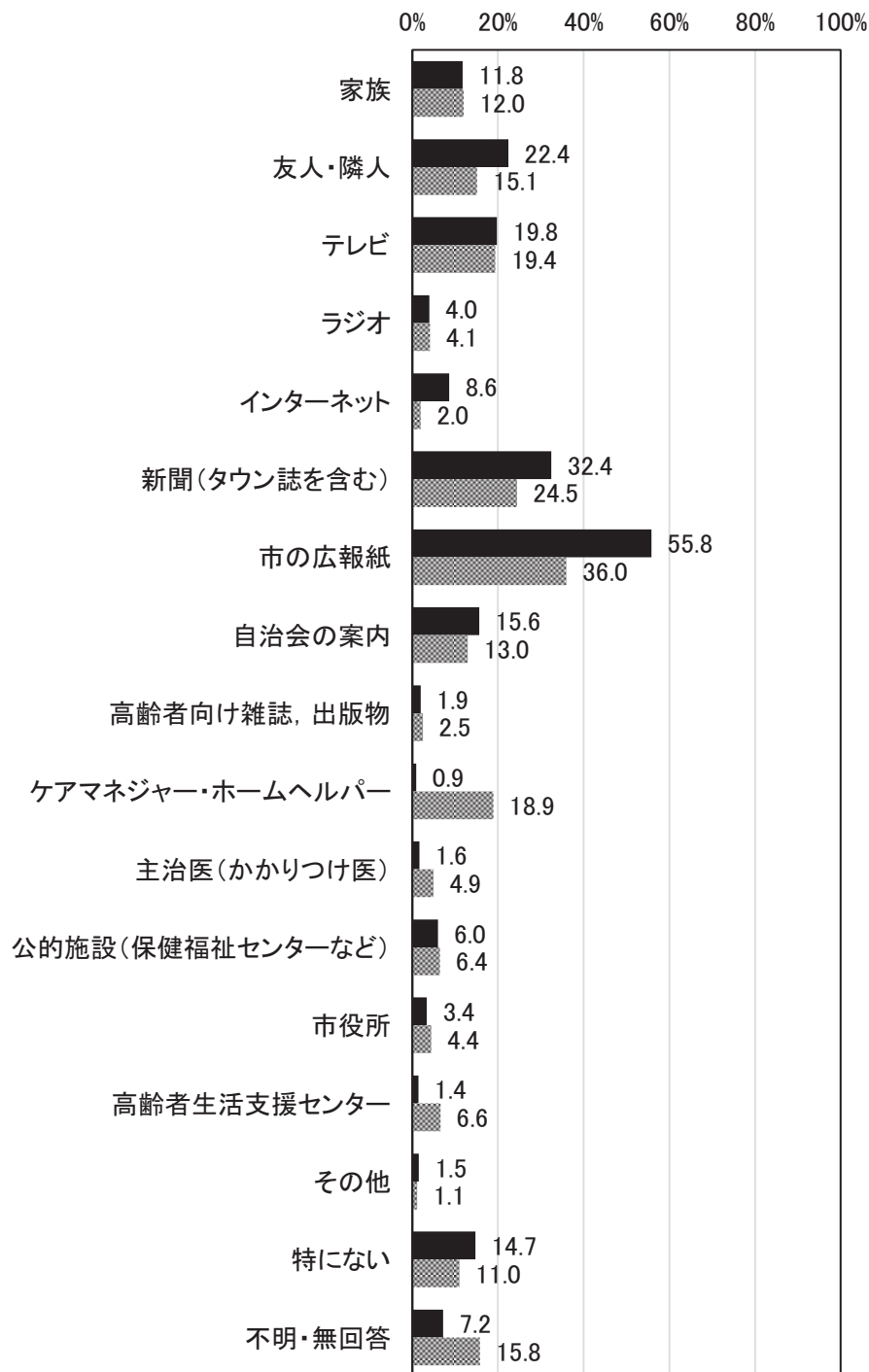
■性別，及び年齢別（一般高齢者）

単位：%

| | | 合計 | 経験， 知識を生かせる 仕事 | 労働時間 を選べる仕事 | 自分の 体力に 合った 仕事 | 収入 | その他 | わからない | 不明・ 無回答 |
|----|--------|-----|----------------------|----------------|-------------------------|------|-----|-------|------------|
| | 全体 | 715 | 50.8 | 33.8 | 51.5 | 19.3 | 2.8 | 1.7 | 12.0 |
| 性別 | 男性 | 418 | 57.9 | 28.2 | 45.7 | 18.9 | 2.4 | 1.4 | 11.7 |
| | 女性 | 292 | 40.8 | 42.1 | 59.9 | 19.5 | 3.4 | 2.1 | 12.7 |
| 年齢 | 65～69歳 | 299 | 56.5 | 41.5 | 54.5 | 23.4 | 1.0 | 1.3 | 7.7 |
| | 70～74歳 | 181 | 45.9 | 36.5 | 55.2 | 21.5 | 1.1 | 1.7 | 9.4 |
| | 75～79歳 | 139 | 49.6 | 22.3 | 50.4 | 10.8 | 5.8 | 1.4 | 16.5 |
| | 80～84歳 | 52 | 36.5 | 19.2 | 36.5 | 9.6 | 5.8 | 3.8 | 28.8 |
| | 85歳以上 | 24 | 50.0 | 20.8 | 33.3 | 12.5 | 8.3 | 4.2 | 20.8 |

④高齢者向け催し物やサービス提供に関する情報の入手先

一般高齢者，要支援認定者ともに，「市の広報紙」が最も多く，次いで「新聞（タウン誌を含む）」と続いています。



■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)

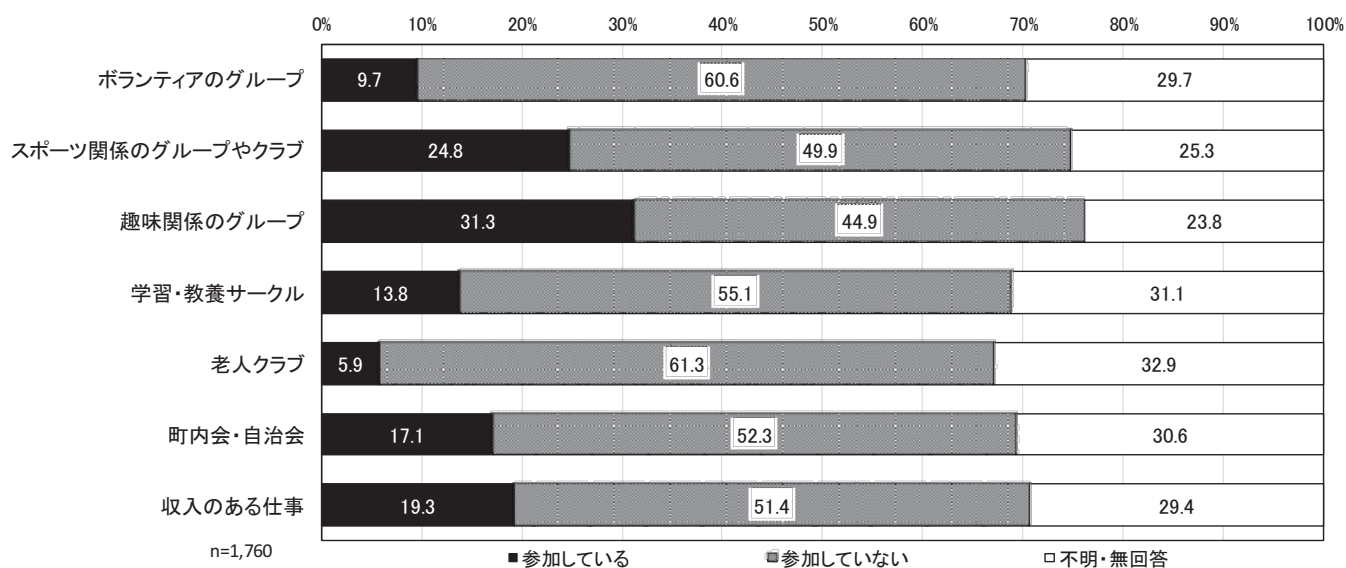
■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

⑤地域活動について

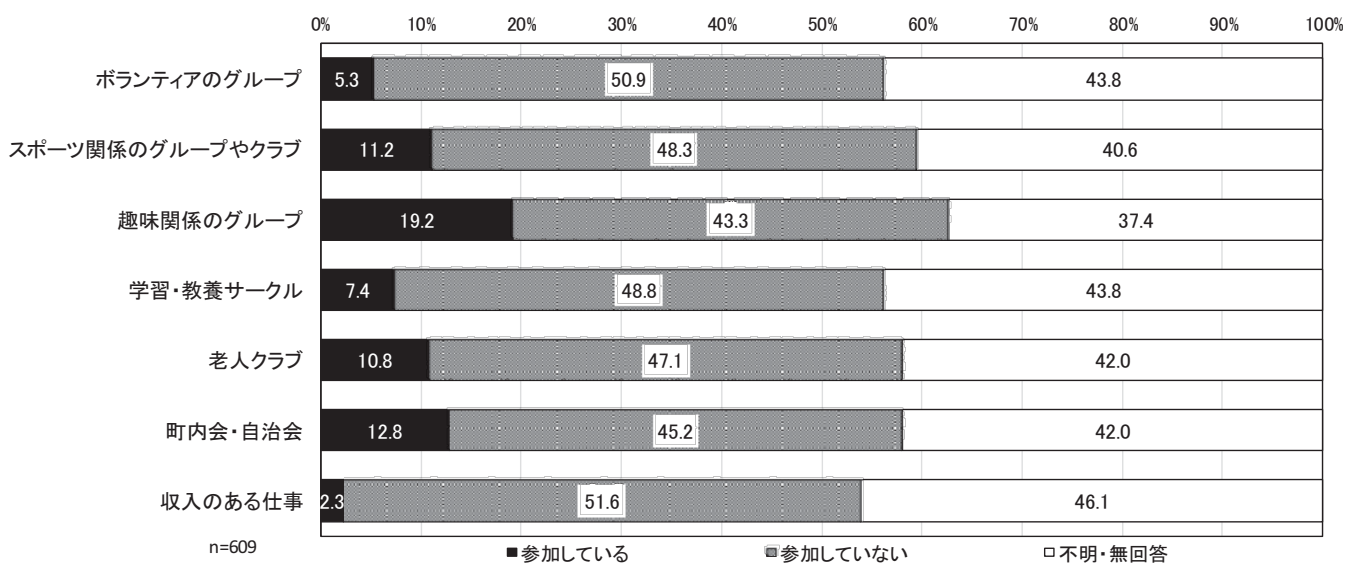
(1)地域づくり活動への参加状況

一般高齢者，要支援認定者ともに，どの会・グループも「参加していない」が最も多く，約45%～60%を占めています。

〔一般高齢者〕



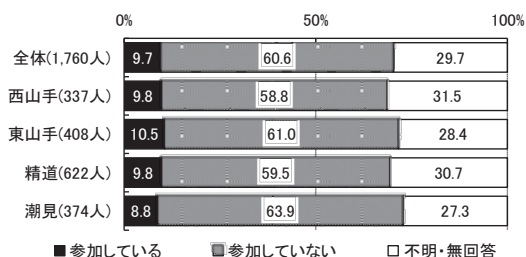
〔要支援認定者〕



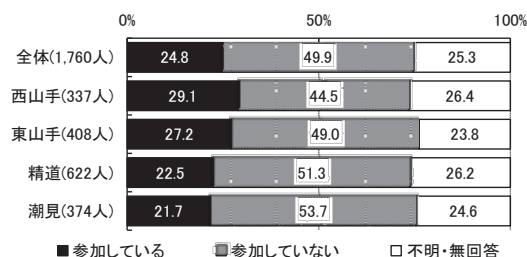
一般高齢者の地域活動について、地域別にみると、「スポーツ関係のグループ」「趣味関係のグループ」「学習・教養サークル」「町内会・自治会」「収入のある仕事」では「西山手」,「ボランティアのグループ」では「東山手」「老人クラブ」では「精道」が最も多くなっています。「老人クラブ」では「精道」が最も多くなっています。

■地域別（一般高齢者）

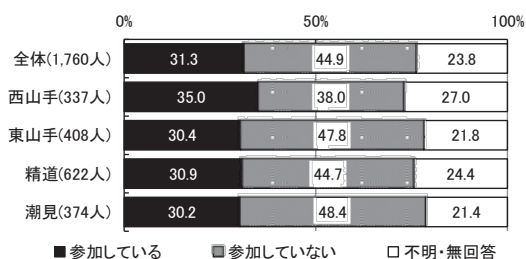
〔ボランティアのグループ〕



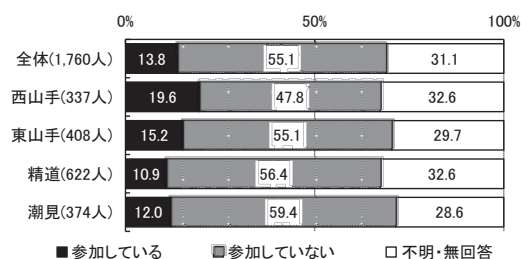
〔スポーツ関係のグループ〕



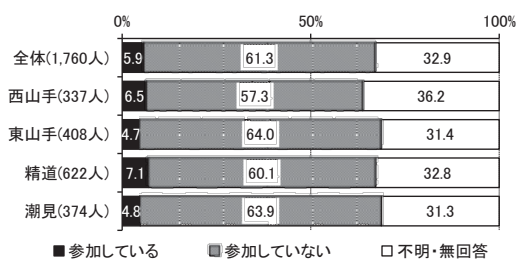
〔趣味関係のグループ〕



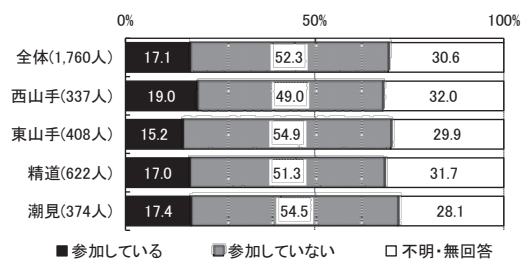
〔学習・教養サークル〕



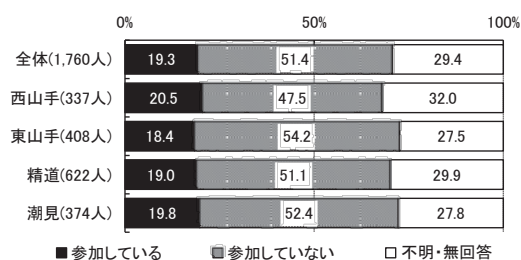
〔老人クラブ〕



〔町内会・自治会〕



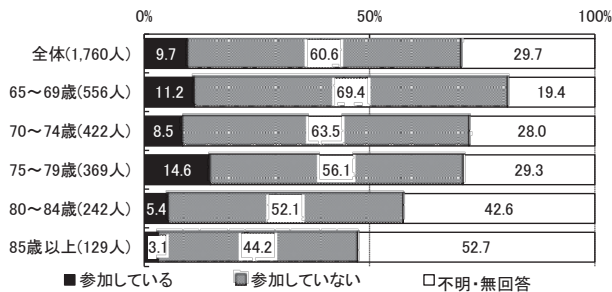
〔収入のある仕事〕



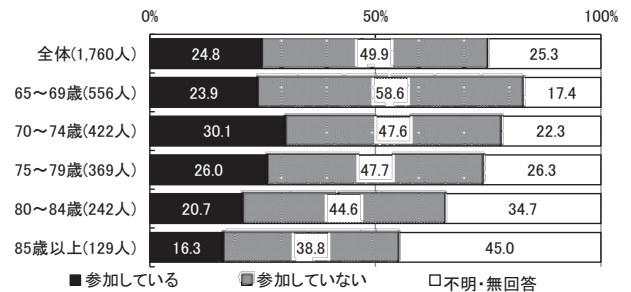
一般高齢者の地域活動について、年齢別にみると、「収入のある仕事」を除き、70～79歳を中心に「参加している」が多くなっています。

■年齢別（一般高齢者）

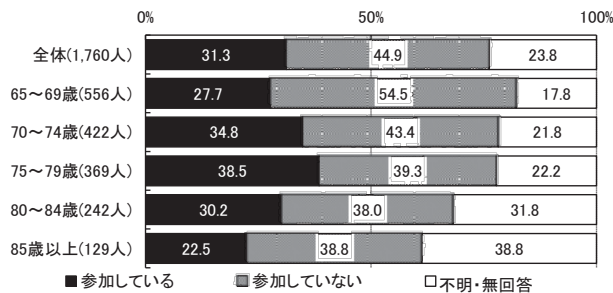
〔ボランティアのグループ〕



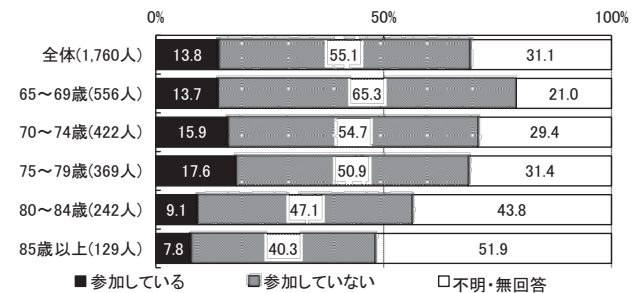
〔スポーツ関係のグループ〕



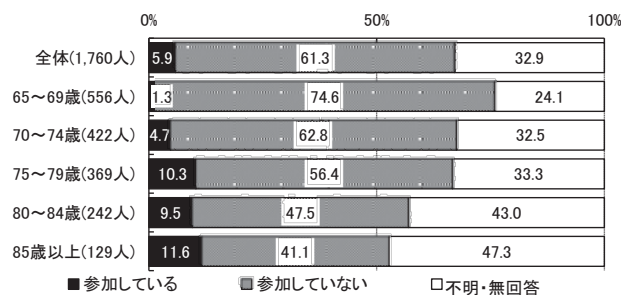
〔趣味関係のグループ〕



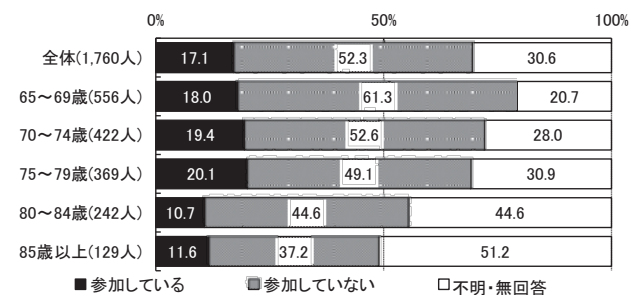
〔学習・教養サークル〕



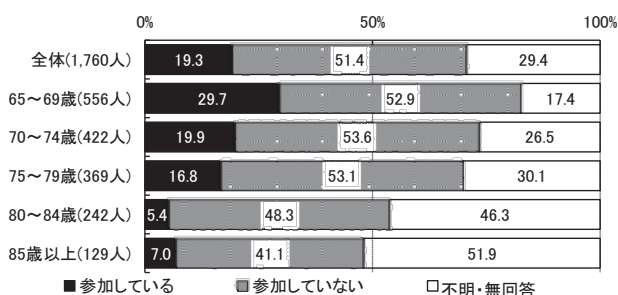
〔老人クラブ〕



〔町内会・自治会〕



〔収入のある仕事〕

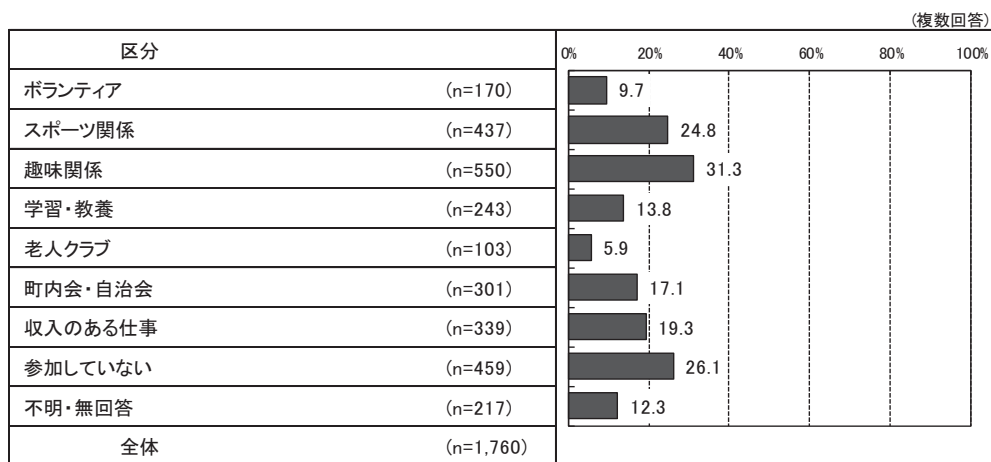


前回調査と比べて、本調査では「スポーツ関係」、「趣味関係」、「学習・教養」の回答割合が10ポイント以上、増加しています。

本調査では、前回調査にあった「健康づくり活動や介護予防活動」がなく、前回調査で「健康づくり活動や介護予防活動」を回答した層が本調査の「スポーツ関係」を回答したと仮定しても、10ポイント増加しています。

■経年変化

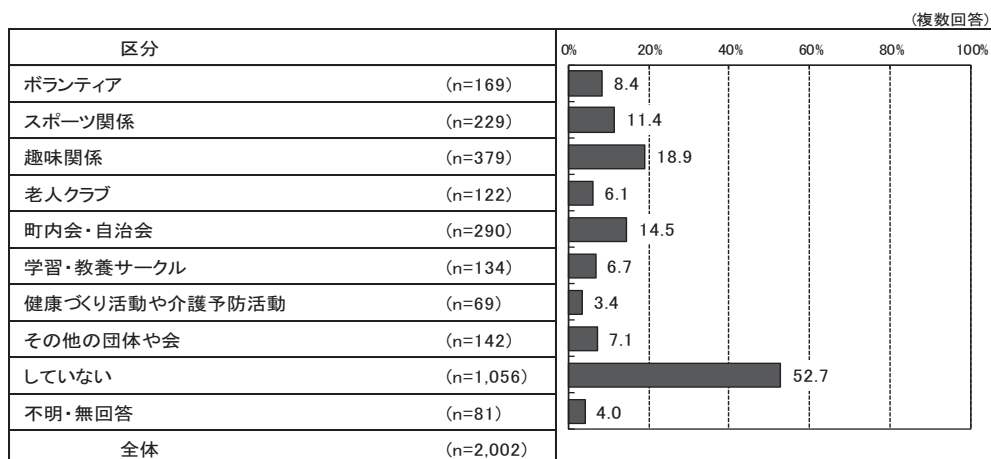
〔本調査〕



注1：本設問は元々、「区分」の項目ごとの単数回答であるが、前回調査と比較するため、複数回答として処理している。処理内容は、「区分」の項目ごとの活動に参加している人を合算し、母数に対する割合を算出した。

注2：「参加していない」の回答割合の経年変化の比較はできない。理由は、「参加していない」以外の選択肢が異なるため、「参加していない」の回答の意味内容が異なるため。

〔前回調査〕

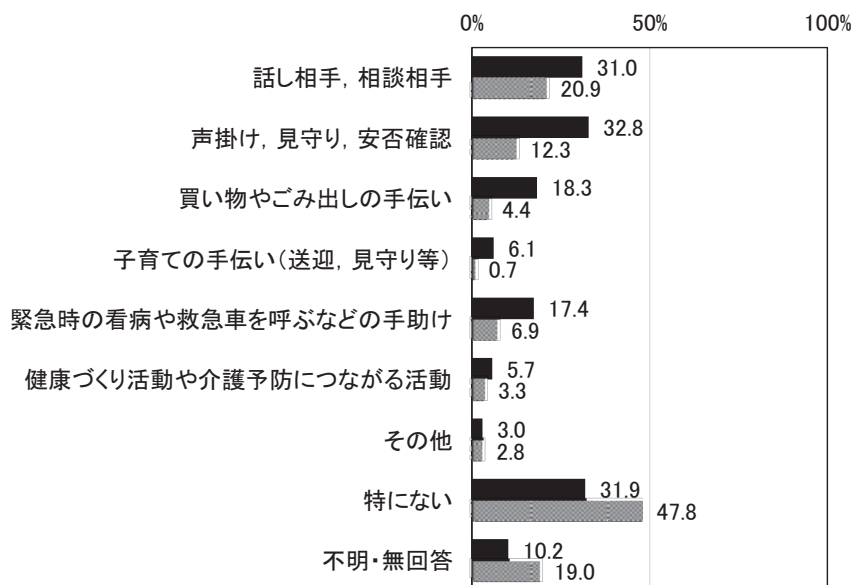


(2) 地域の人に対してできる支援

一般高齢者は、「声掛け、見守り、安否確認」が32.8%で最も多く、次いで「特にない」が31.9%、「話し相手、相談相手」が31.0%となっています。

「声掛け、見守り、安否確認」や「話し相手、相談相手」について、高齢者の社会参加・支え合い体制づくりの社会資源となりうる人が約30%いることがうかがえます。

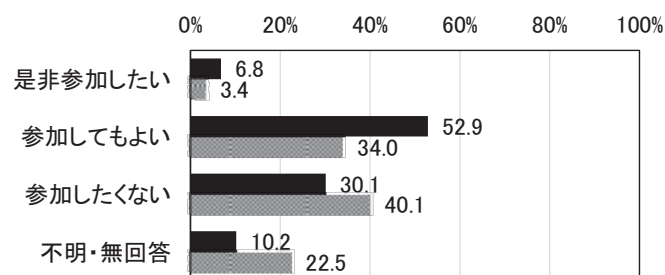
要支援認定者は、「特にない」が47.8%で最も多く、次いで「話し相手、相談相手」が20.9%、「声掛け、見守り、安否確認」が12.3%となっています。



■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
 □介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

(3) 地域づくり活動への参加意向

一般高齢者は、「是非参加したい」と「参加してもよい」と合わせて59.7%、要支援認定者は、「是非参加したい」と「参加してもよい」と合わせて37.4%となっています。

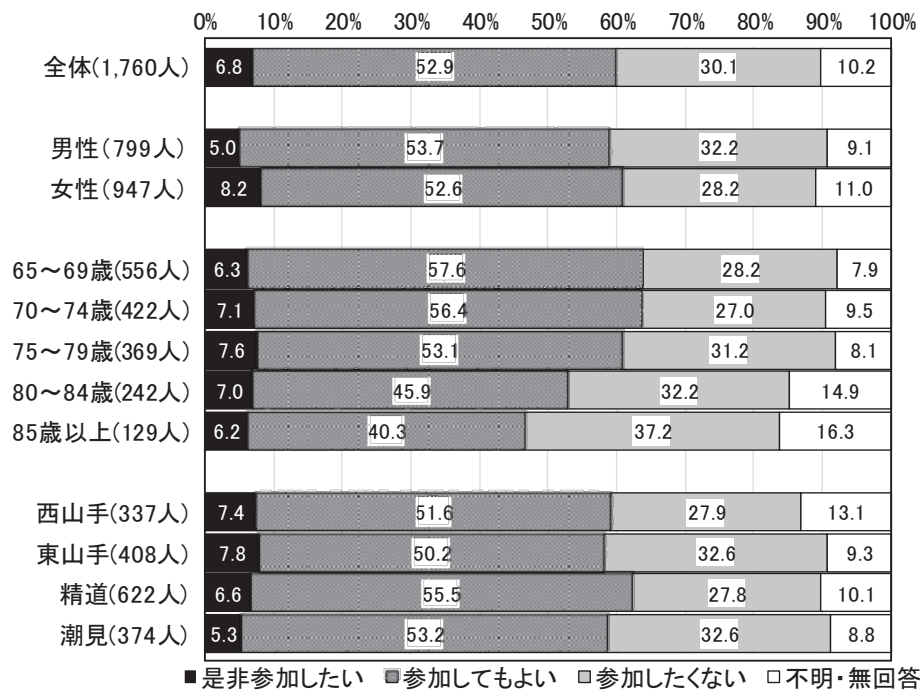


■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
 □介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

一般高齢者において、性別にみると、男女ともに、「参加してもよい」が約50%となっています。

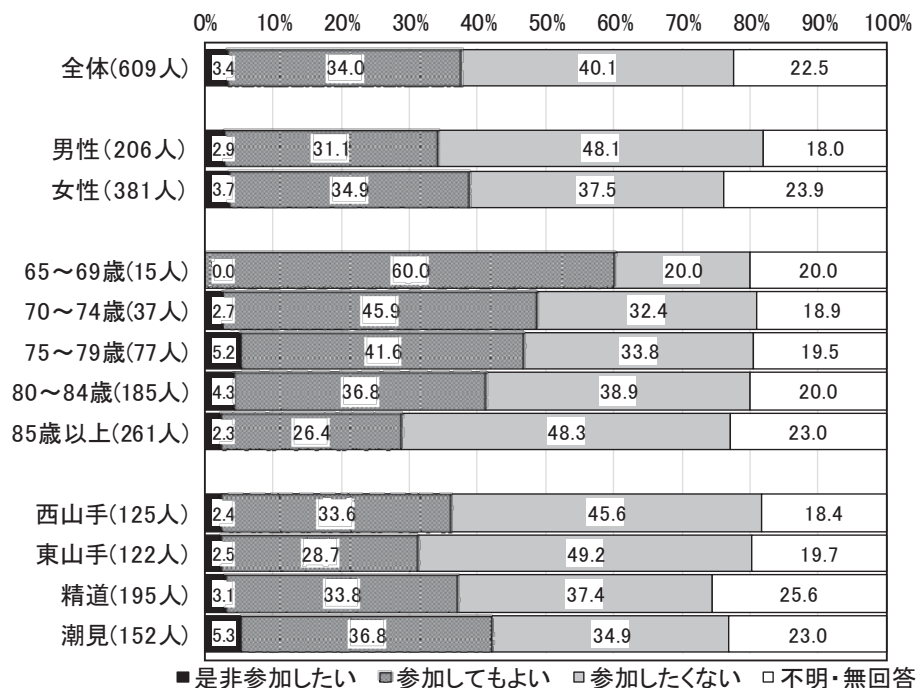
年齢別にみると、いずれの年齢も「参加してもよい」が約40%~50%となっています。地域別にみると、いずれの地域も「参加してもよい」が約50%となっています。

■男女別，年齢別，及び地域別（一般高齢者）



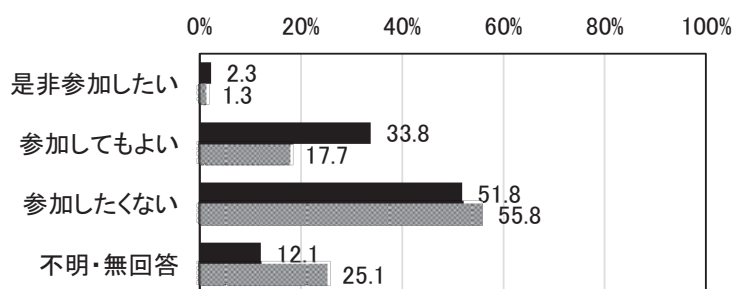
要支援認定者において、性別にみると、男女ともに、「参加してもよい」が「参加したくない」を下回っています。年齢別にみると、79歳以下は「参加してもよい」、80歳以上は「参加したくない」が多くなっています。地域別にみると、潮見は「参加してもよい」が「参加したくない」を上回っています。

■男女別，年齢別，及び地域別（要支援認定者）



(4) 地域づくり活動の企画・運営への参加意向

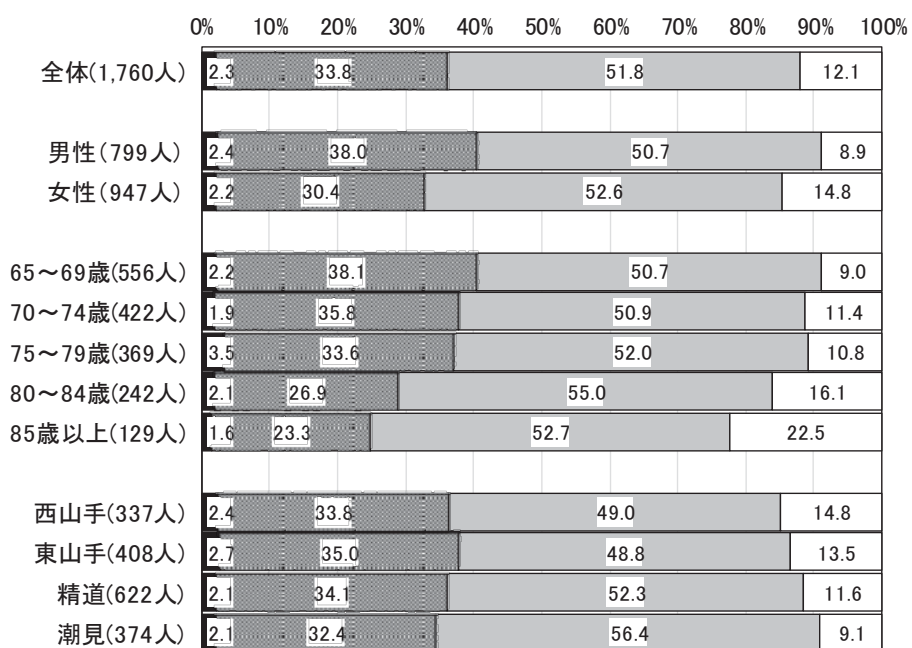
一般高齢者は、「是非参加したい」と「参加してもよい」と合わせて 36.1%、要支援認定者は、「是非参加したい」と「参加してもよい」と合わせて 19.0%となっています。地域づくり活動の企画・運営（お世話役）として、社会参加・支え合い体制づくりの社会資源となりうる人が約 20%～30%いることがうかがえます。



■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
 ■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

一般高齢者において、性別にみると、男女ともに、「参加してもよい」が約 30%～40%となっています。年齢別にみると、いずれの年齢も「参加してもよい」が約 20%～30%となっており、年齢が低いほど多くなっています。地域別にみると、いずれの地域も「参加してもよい」が約 30%となっています。

■ 男女別、年齢別、及び地域別（一般高齢者）



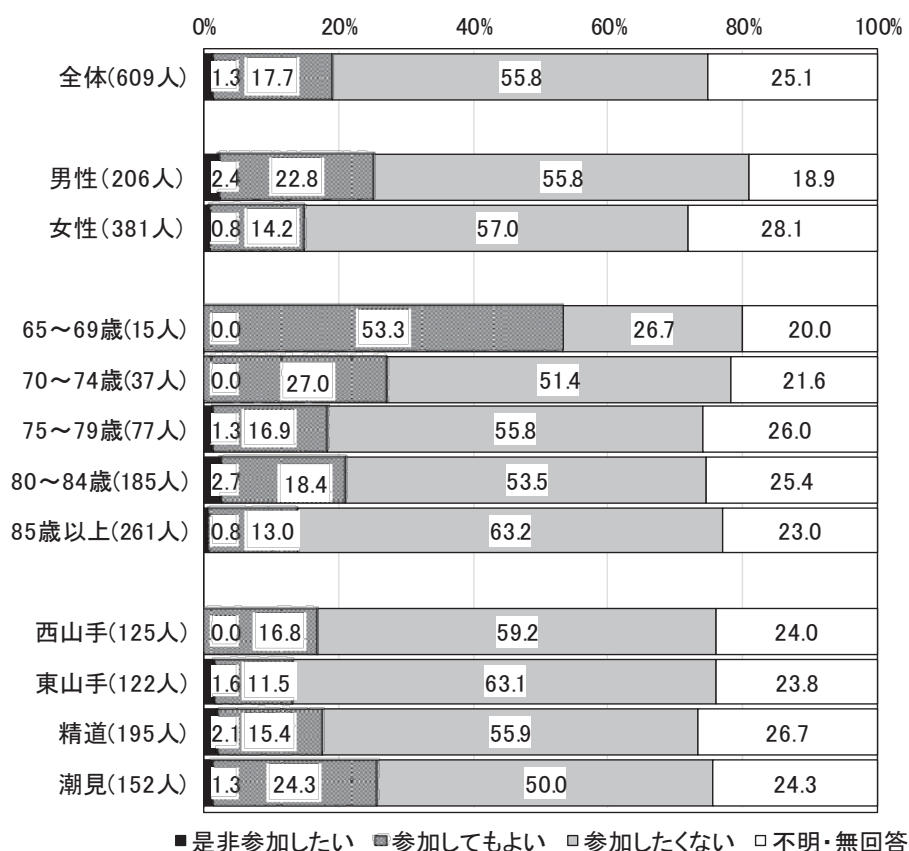
■ 是非参加したい ■ 参加してもよい □ 参加したくない □ 不明・無回答

要支援認定者において、性別にみると、男女ともに、「参加してもよい」が約 10%～20%となっています。

年齢別にみると、69 歳以下は「参加してもよい」、70 歳以上は「参加したくない」が多くなっています。

地域別にみると、いずれの地域も「参加してもよい」が約 10%～20%となっています。

■ 男女別、年齢別、及び地域別（要支援認定者）

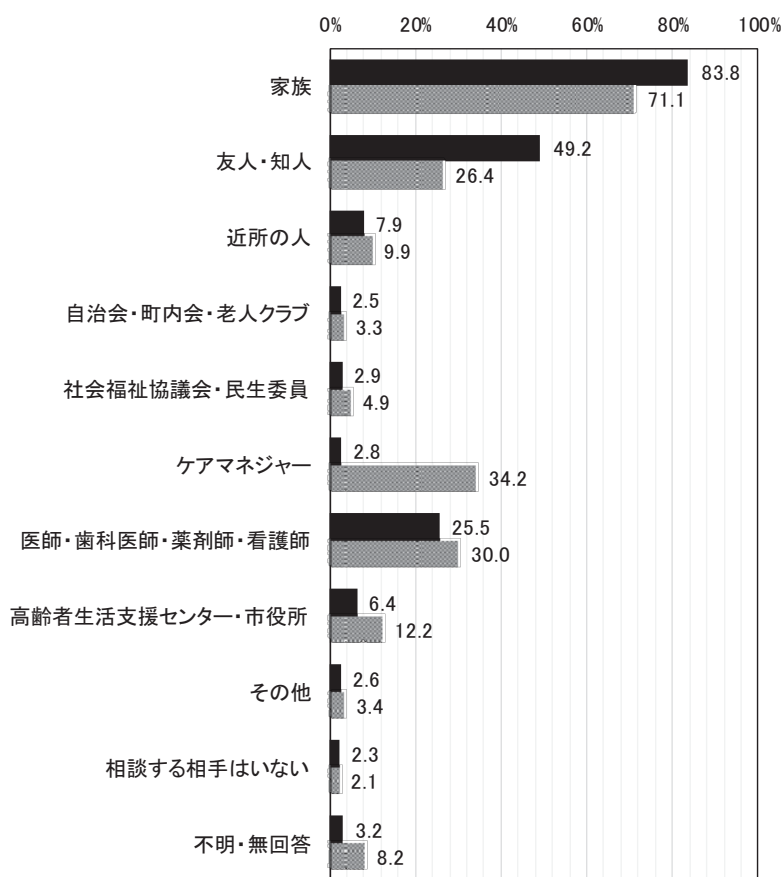


(5)何かあったときに相談する相手

一般高齢者は、「家族」が83.8%で最も多く、次いで「友人・知人」が49.2%、「医師・歯科医師・薬剤師・看護師」が25.5%となっています。

要支援認定者は、「家族」が71.1%で最も多く、次いで「ケアマネジャー」が34.2%、「医師・歯科医師・薬剤師・看護師」が30.0%となっています。

一般高齢者において、構成別にみると、「1人暮らし」では「家族などと同居」と比べて、「友人・知人」を相談相手としている人が多くなっています。「家族などと同居」では「家族」が多くなっています。



■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
 ■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

■家族構成別（一般高齢者）

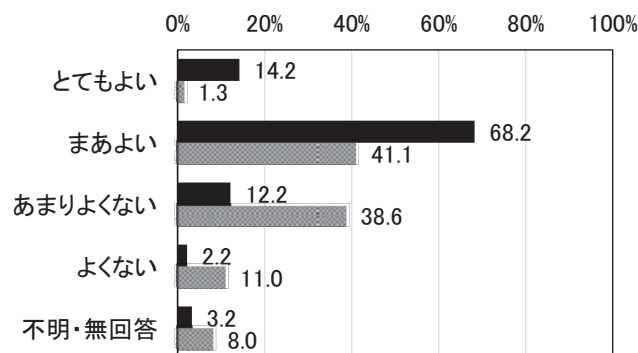
単位：%

| | 合計 | 家族 | 友人・知人 | 近所の人 | 自治会・町内会・老人クラブ | 社会福祉協議会・民生委員 | ケアマネジャー | 医師・歯科医師・薬剤師・看護師 | 高齢者生活支援センター・市役所 | その他 | 相談する相手はいない | 不明・無回答 |
|---------|-------|------|-------|------|---------------|--------------|---------|-----------------|-----------------|-----|------------|--------|
| 全体 | 1,760 | 83.8 | 49.2 | 7.9 | 2.5 | 2.9 | 2.8 | 25.5 | 6.4 | 2.6 | 2.3 | 3.2 |
| 1人暮らし | 327 | 54.1 | 57.8 | 12.5 | 2.8 | 4.3 | 2.1 | 23.9 | 8.3 | 6.4 | 6.1 | 4.0 |
| 家族などと同居 | 1,398 | 90.7 | 47.5 | 6.9 | 2.5 | 2.6 | 2.9 | 25.8 | 6.1 | 1.8 | 1.4 | 3.1 |

(6) 現在の健康状態

一般高齢者は、「まあよい」が68.2%で最も多く、次いで「とてもよい」が14.2%、「あまりよくない」が12.2%となっています。

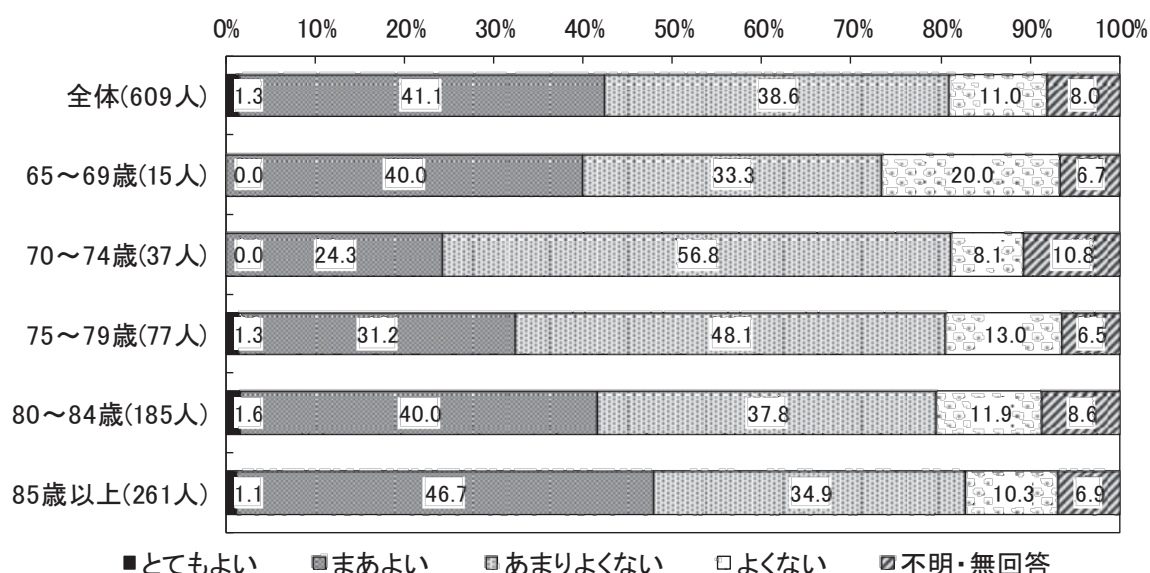
要支援認定者は、「まあよい」が41.1%で最も多く、次いで「あまりよくない」が38.6%、「よくない」が11.0%となっています。



■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
 ■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

要支援認定者において、年齢別にみると、70歳以上ではよいと感じている人（「よい」と「まあよい」の合計）が増加する傾向にあります。

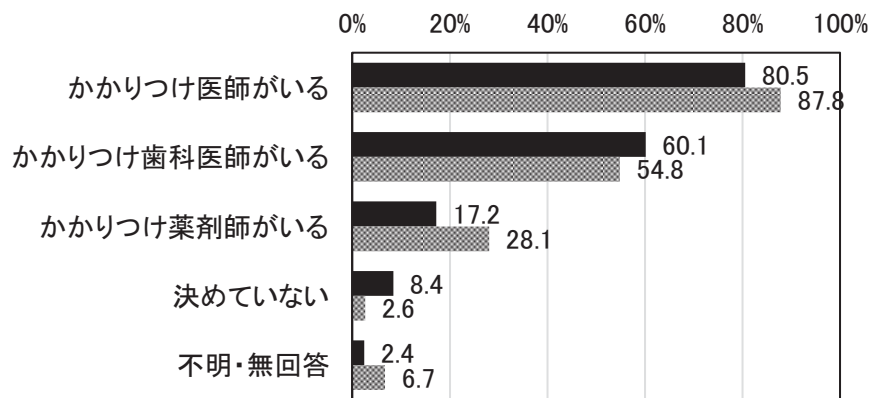
■ 年齢別（要支援認定者）



■ とてもよい ■ まあよい ■ あまりよくない □ よくない ■ 不明・無回答

⑦かかりつけ医師・歯科医師・薬剤師の有無

一般高齢者，要支援認定者は，「かかりつけ医師がいる」は80%以上，「かかりつけ歯科医師がいる」は約55%～60%います。

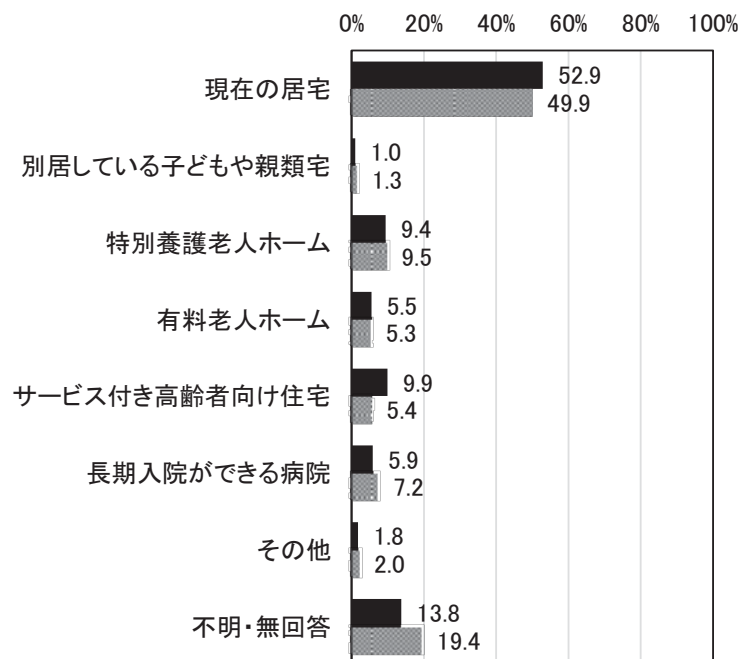


■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
 ■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

⑧将来，介護を受ける場所への意向

一般高齢者は，「現在の居宅」が52.9%で最も多く，次いで「サービス付き高齢者向け住宅」が9.9%，「特別養護老人ホーム」が9.4%となっています。

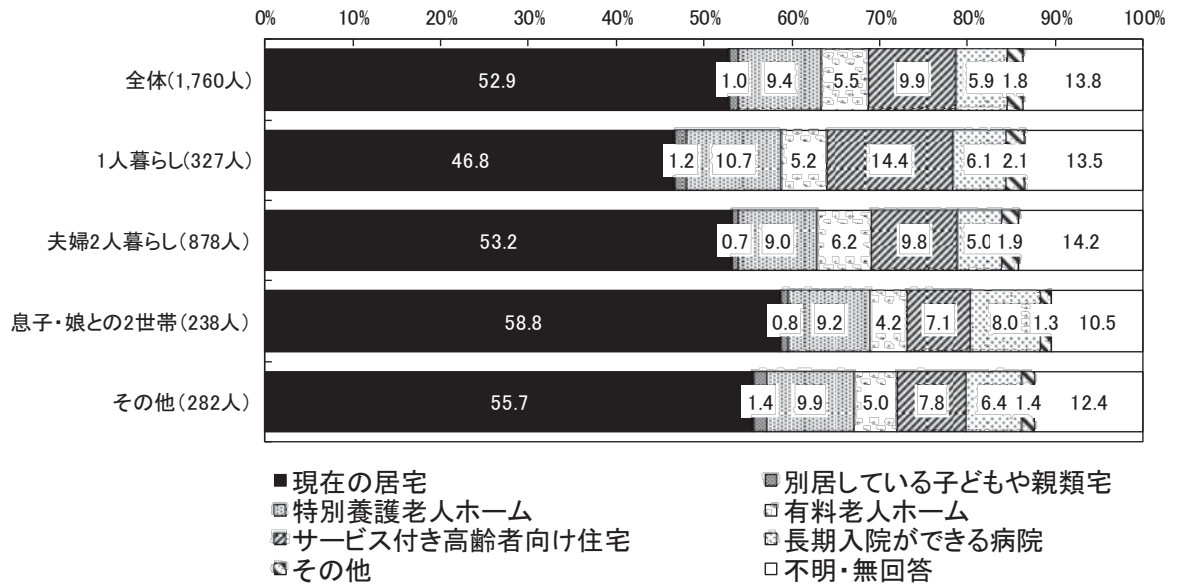
要支援認定者は，「現在の居宅」が49.9%で最も多く，次いで「特別養護老人ホーム」が9.5%，「長期入院ができる病院」が7.2%となっています。



■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
 ■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

一般高齢者において、家族構成別にみると、いずれの家族構成においても、「現在の居宅」が40%～60%となっています。

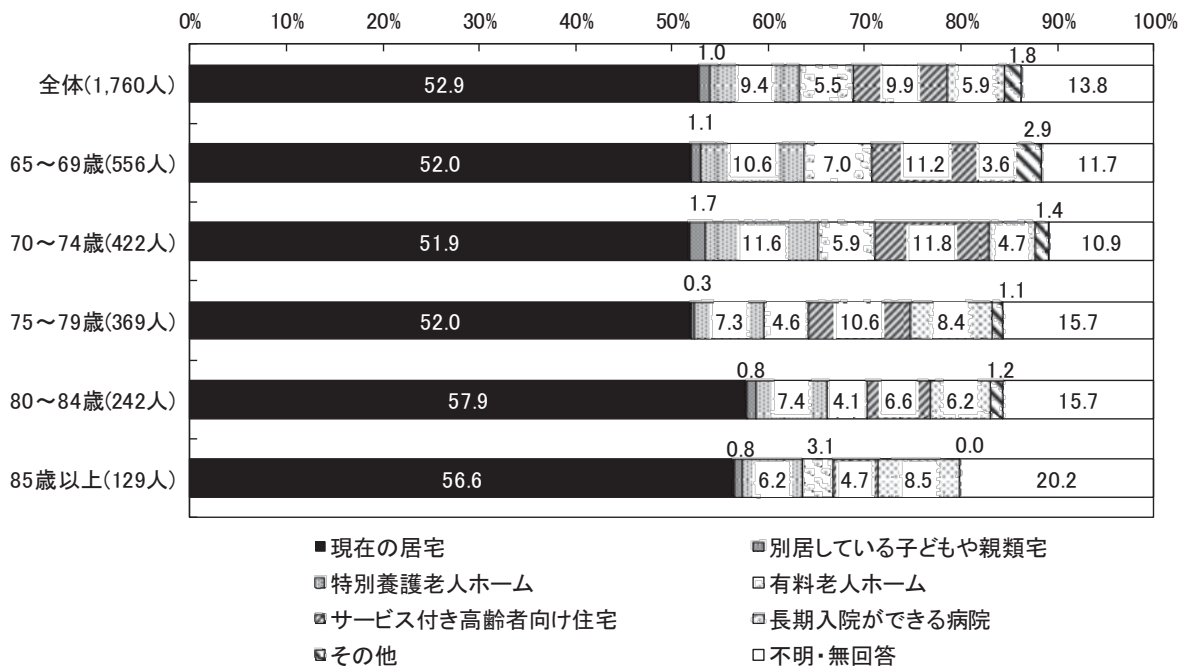
■ 家族構成別（一般高齢者）



一般高齢者において、年齢別にみると、いずれの年齢も、「現在の居宅」が約50%となっています。

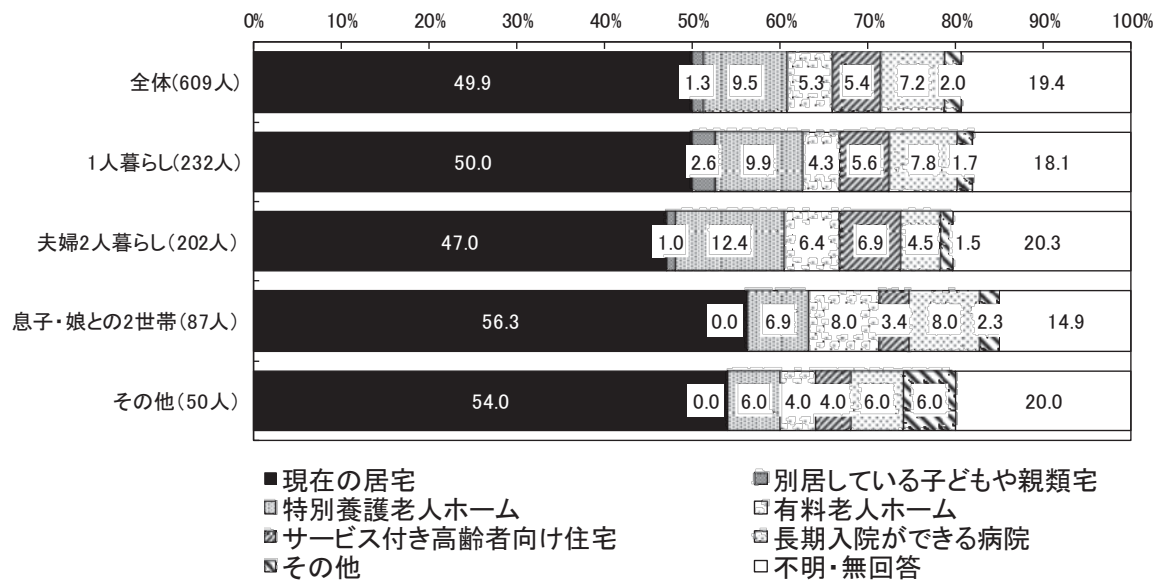
次いで、79歳以下では「サービス付き高齢者向け住宅」、80～84歳では「特別養護老人ホーム」、85歳以上では「長期入院ができる病院」となっています。

■ 年齢別（一般高齢者）



要支援認定者において、家族構成別にみると、いずれの家族構成においても、「現在の居宅」が約50%～60%となっています。

■ 家族構成別（要支援認定者）

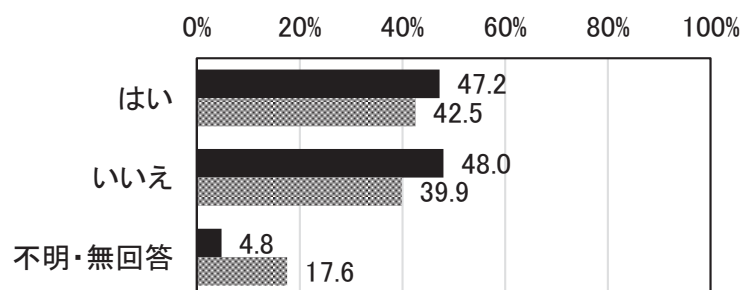


⑨ 介護の経験について

(1) 介護経験の有無

一般高齢者、要支援認定者ともに、「はい」（介護をしたことがある）が約40%となっています。

一般高齢者について、年齢別にみると、いずれの年代においても、「はい」（介護をしたことがある）が約40%～50%となっています。

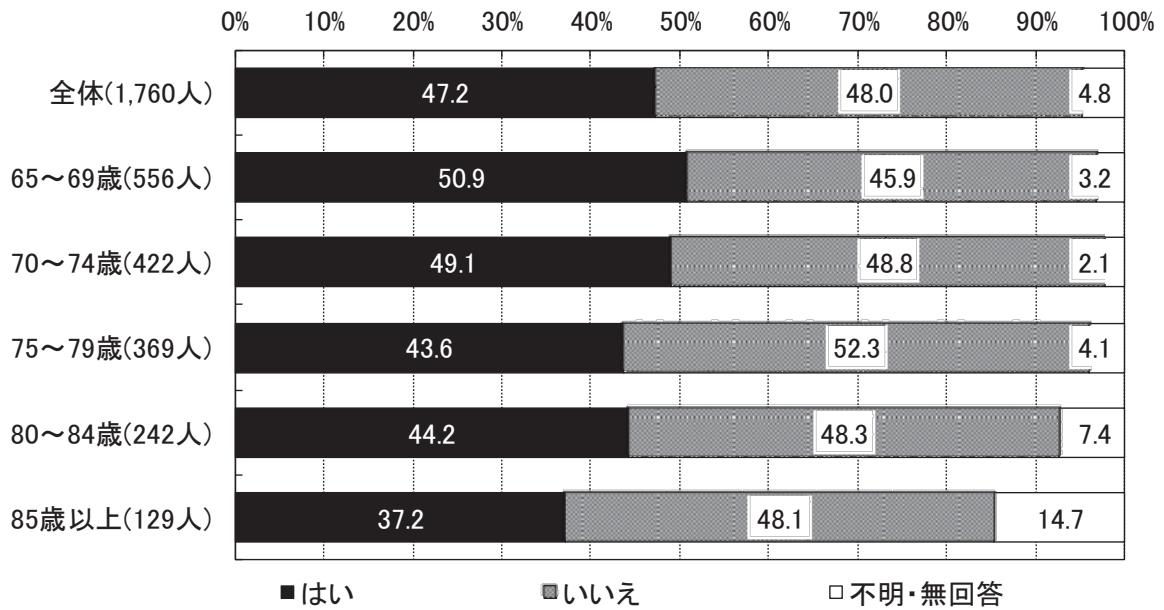


- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
- ▨ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)

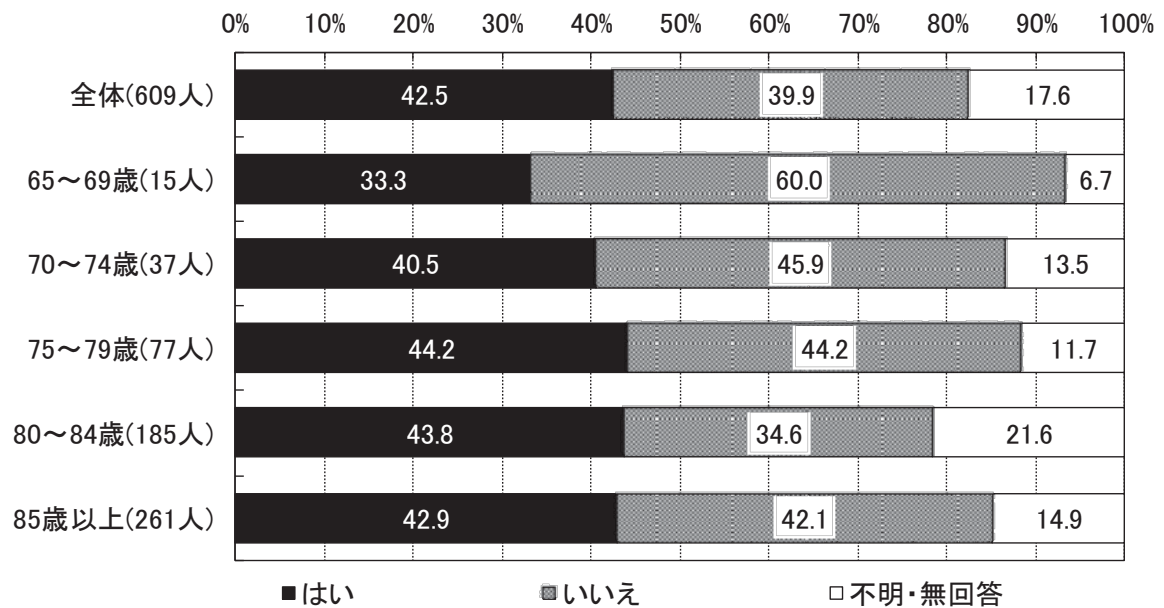
一般高齢者において、年齢別にみると、74歳以下では、「はい」が「いいえ」より上回っています。

要支援認定者において、年齢別にみると、65～79歳まで、「はい」が上昇する傾向にあります。

■ 年齢別（一般高齢者）



■ 年齢別（要支援認定者）

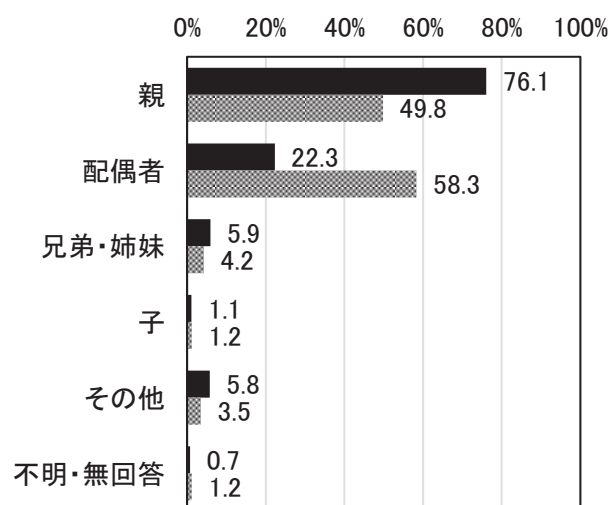


(2) 誰の介護をしたか(現在している場合も含む)

(介護経験のある方)

一般高齢者は、「親」が76.1%で最も多く、次いで「配偶者」が22.3%、「兄弟・姉妹」が5.9%となっています。

要支援認定者は、「配偶者」が58.3%で最も多く、次いで「親」が49.8%、「兄弟・姉妹」が4.2%となっています。

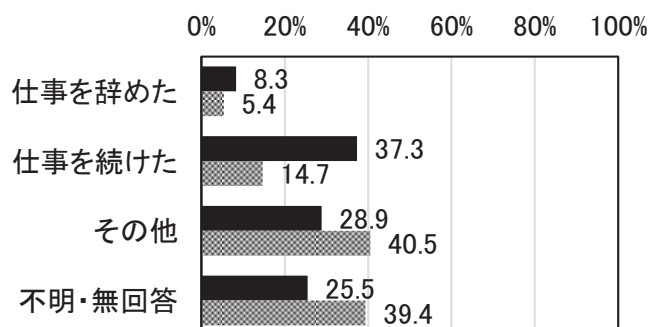


■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=831)
※ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=259)

(3) 介護離職の状況

(介護経験のある方)

一般高齢者は、「仕事を続けた」が37.3%で最も多く、次いで「その他」が28.9%、「仕事を辞めた」が8.3%となっています。要支援認定者は、「その他」が40.5%で最も多く、次いで「仕事を続けた」が14.7%、「仕事を辞めた」が5.4%となっています。



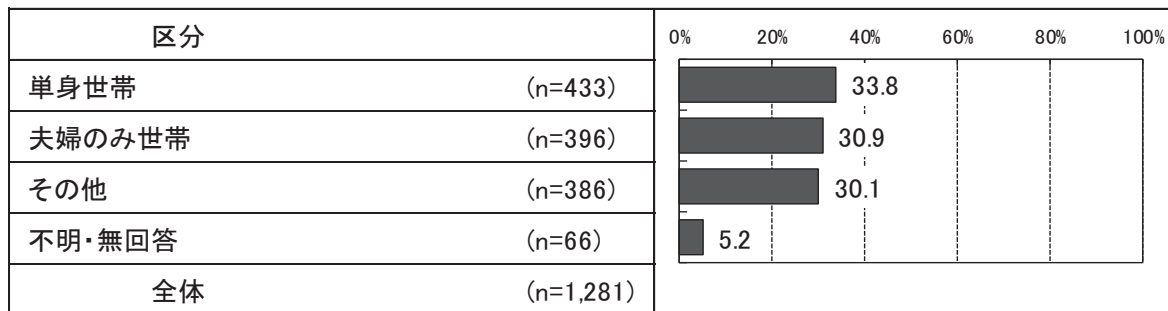
■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=831)
※ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=259)

(2) 在宅介護実態調査

A票（要支援・要介護認定者）

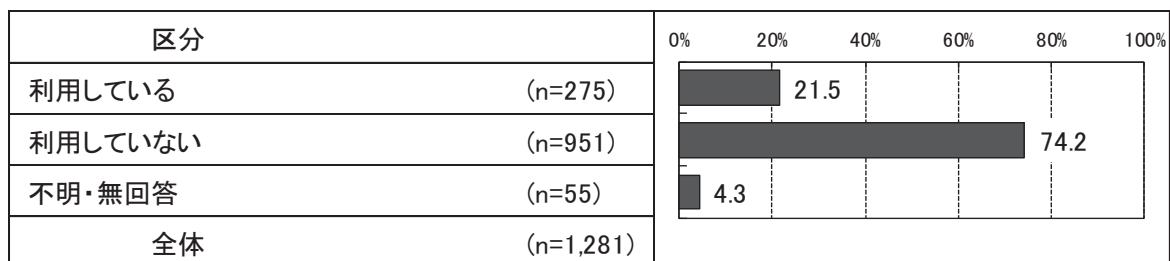
①世帯類型

「単身世帯」が33.8%で最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」が30.9%、「その他」が30.1%となっています。



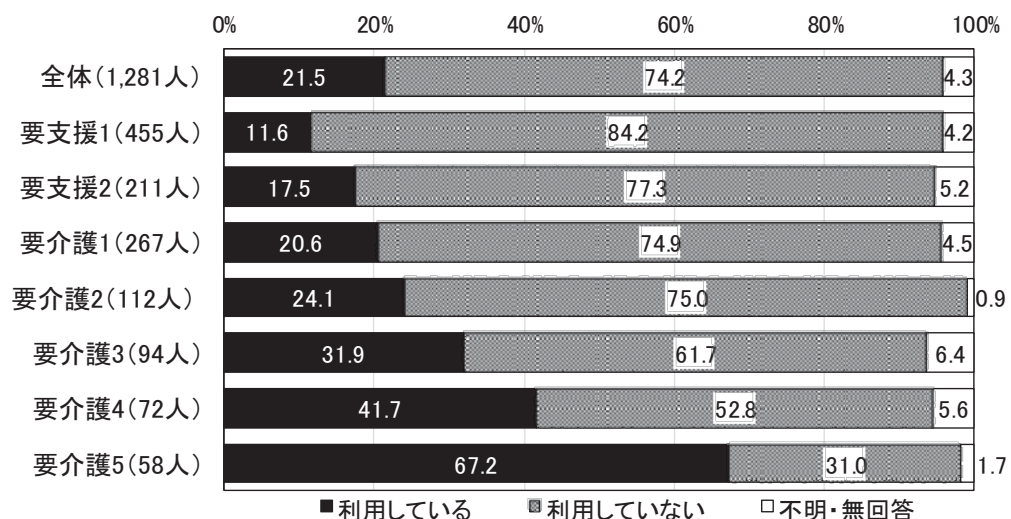
②訪問診療の利用状況

「利用していない」が74.2%、「利用している」が21.5%となっています。



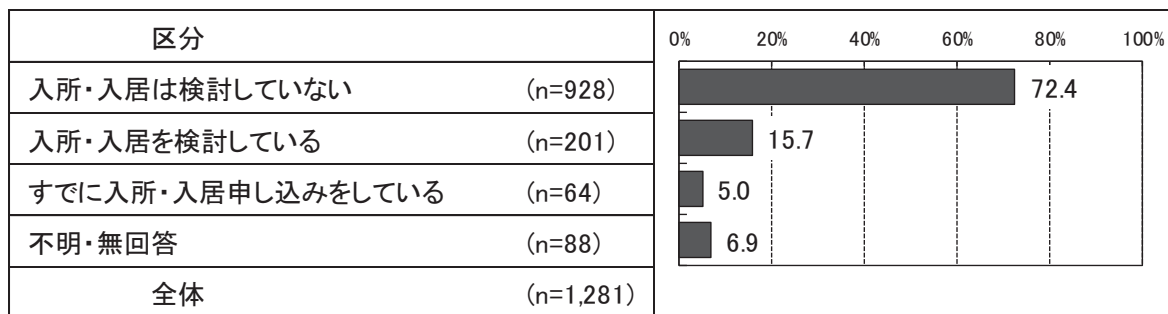
要介護度別にみると、要介護度が上がるほど「利用している」が上昇する傾向にあります。

■年齢別（一般高齢者）



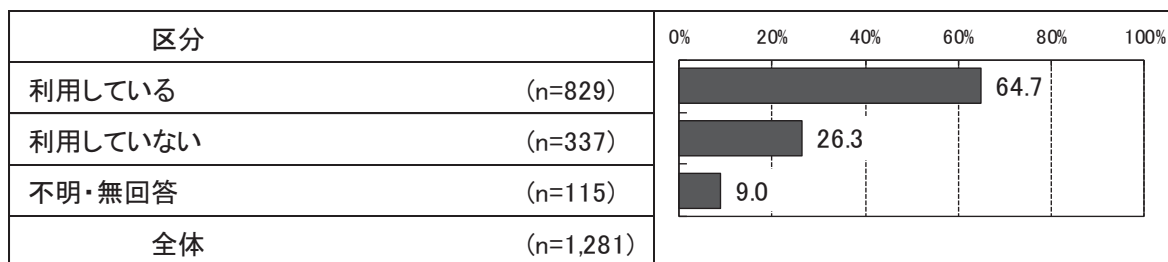
③施設等への入所・入居の検討状況

「入所・入居は検討していない」が72.4%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が15.7%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が5.0%となっています。



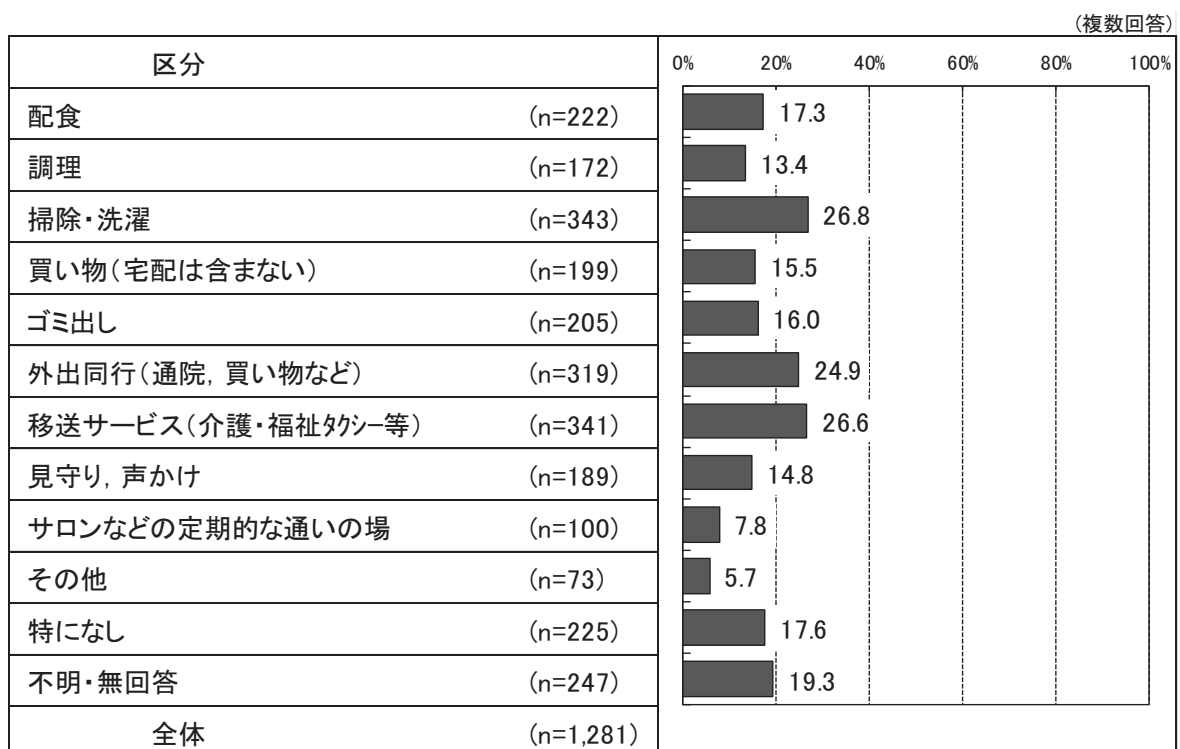
④介護保険サービスの利用状況（住宅改修，福祉用具貸与・購入以外）

「利用している」が64.7%、「利用していない」が26.3%となっています。



⑤在宅生活継続に必要と感じる支援・サービス

「掃除・洗濯」が26.8%で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.6%、「外出同行（通院，買い物など）」が24.9%となっています。



要介護度別にみると、要介護度が上がるほど「掃除・洗濯」が低下し、「移送サービス」がおおむね上昇する傾向にあります。

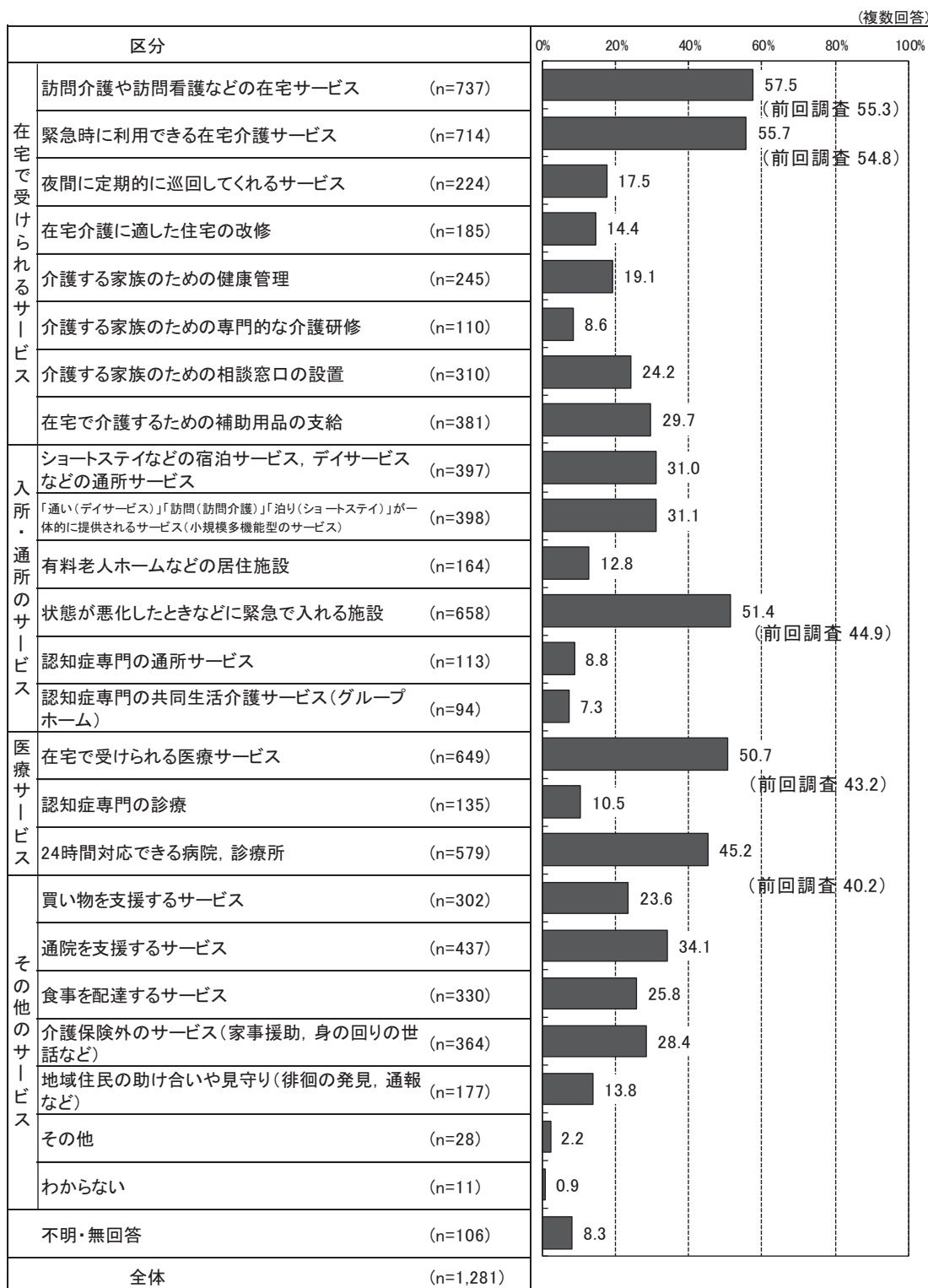
■要介護度別

単位：%

| | 合計 | 配食 | 調理 | 掃除・洗濯 | 買い物（宅配は含まない） | ゴミ出し | 外出同行（通院、買い物など） | 移送サービス（介護・福祉タクシー等） | 見守り、声かけ | サロンなどの定期的な通いの場 | その他 | 特になし | 不明・無回答 |
|------|-------|------|------|-------|--------------|------|----------------|--------------------|---------|----------------|------|------|--------|
| 全体 | 1,281 | 17.3 | 13.4 | 26.8 | 15.5 | 16.0 | 24.9 | 26.6 | 14.8 | 7.8 | 5.7 | 17.6 | 19.3 |
| 要支援1 | 455 | 16.3 | 13.8 | 35.4 | 15.8 | 19.3 | 18.9 | 20.4 | 12.5 | 7.7 | 5.1 | 16.0 | 19.1 |
| 要支援2 | 211 | 16.1 | 16.6 | 28.0 | 18.5 | 20.4 | 29.4 | 24.2 | 9.5 | 8.1 | 4.3 | 17.1 | 22.7 |
| 要介護1 | 267 | 18.0 | 14.2 | 22.1 | 16.9 | 14.2 | 31.8 | 27.7 | 17.6 | 9.4 | 3.7 | 22.8 | 13.9 |
| 要介護2 | 112 | 28.6 | 14.3 | 22.3 | 16.1 | 15.2 | 33.0 | 29.5 | 18.8 | 6.3 | 12.5 | 13.4 | 21.4 |
| 要介護3 | 94 | 20.2 | 7.4 | 19.1 | 16.0 | 10.6 | 24.5 | 39.4 | 20.2 | 12.8 | 7.4 | 13.8 | 17.0 |
| 要介護4 | 72 | 8.3 | 9.7 | 13.9 | 5.6 | 6.9 | 19.4 | 40.3 | 18.1 | 1.4 | 4.2 | 20.8 | 26.4 |
| 要介護5 | 58 | 13.8 | 10.3 | 12.1 | 6.9 | 5.2 | 17.2 | 36.2 | 19.0 | 3.4 | 12.1 | 19.0 | 19.0 |

⑥今後のサービス利用意向

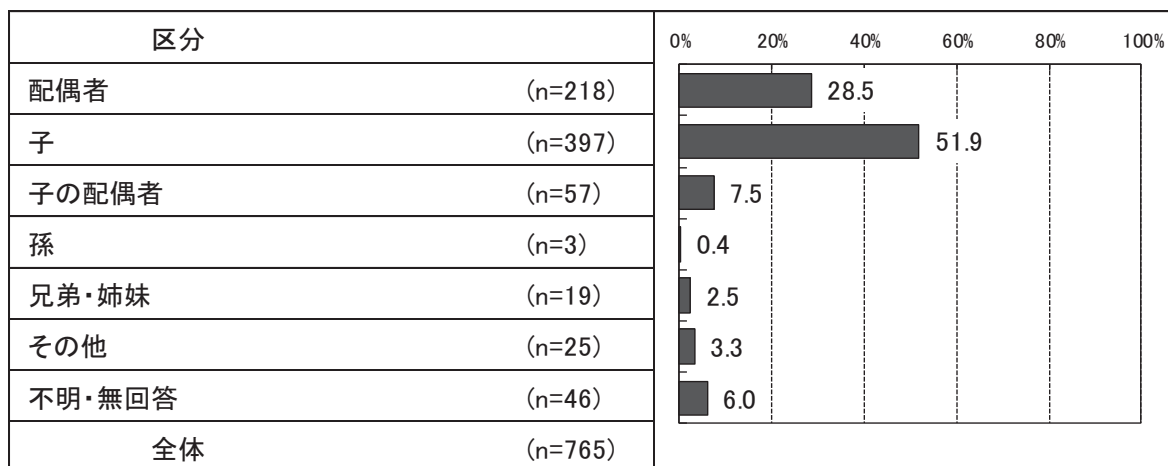
「訪問介護や訪問看護などの在宅サービス」が57.5%で最も多く、次いで「緊急時に利用できる在宅介護サービス」が55.7%、「状態が悪化したときなどに緊急で入れる施設」が51.4%となっています。前回調査と上位5位を比較すると、サービス利用意向の状況は大きく変わっていません。



B票（介護者）

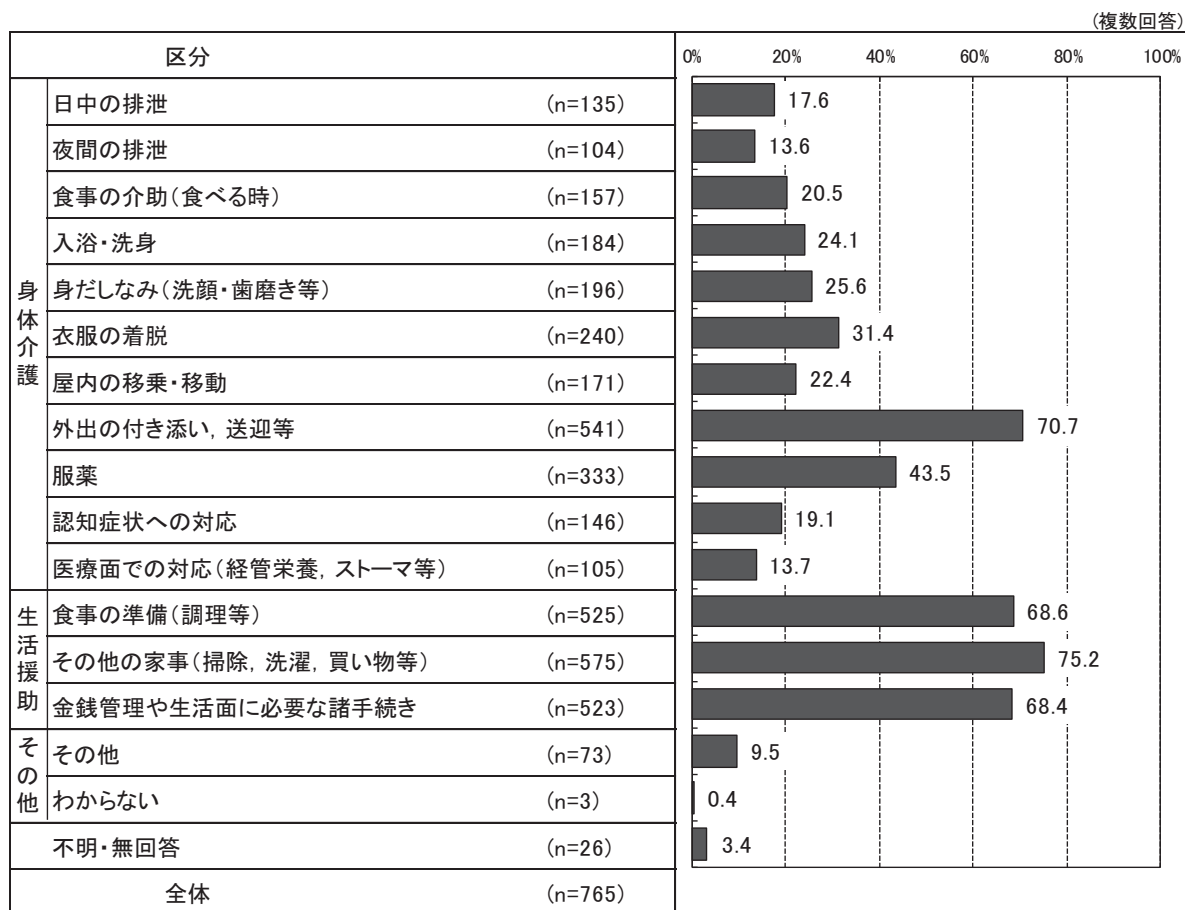
①介護者の続柄

「子」が51.9%で最も多く、次いで「配偶者」が28.5%、「子の配偶者」が7.5%となっています。



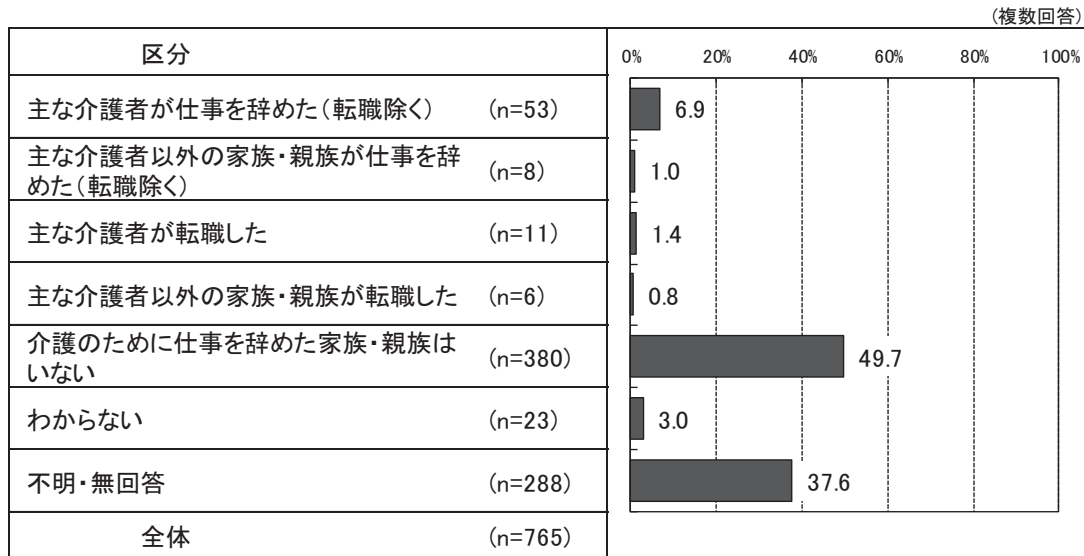
②介護の内容

「その他の家事（掃除，洗濯，買い物等）」が75.2%で最も多く、次いで「外出の付き添い，送迎等」が70.7%、「食事の準備（調理等）」が68.6%となっています。



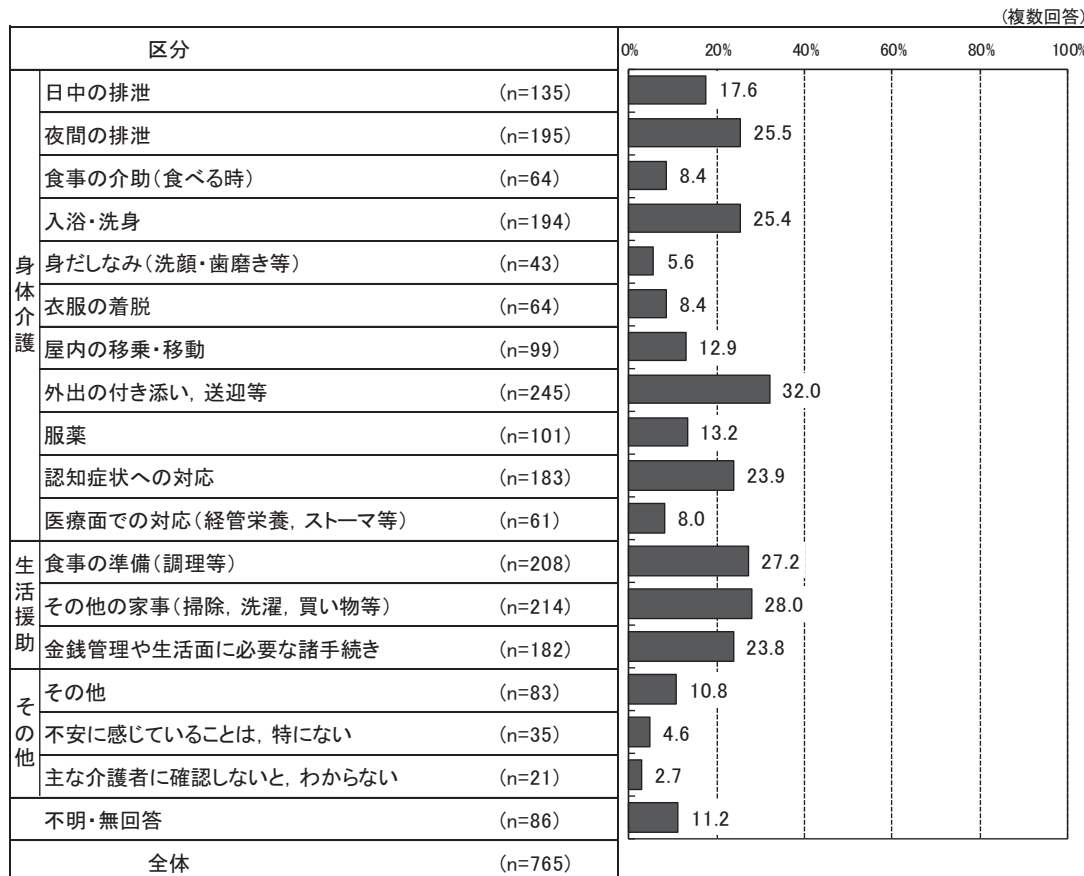
③介護を理由とした離職状況（過去1年間）

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が49.7%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が6.9%、「わからない」が3.0%となっています。



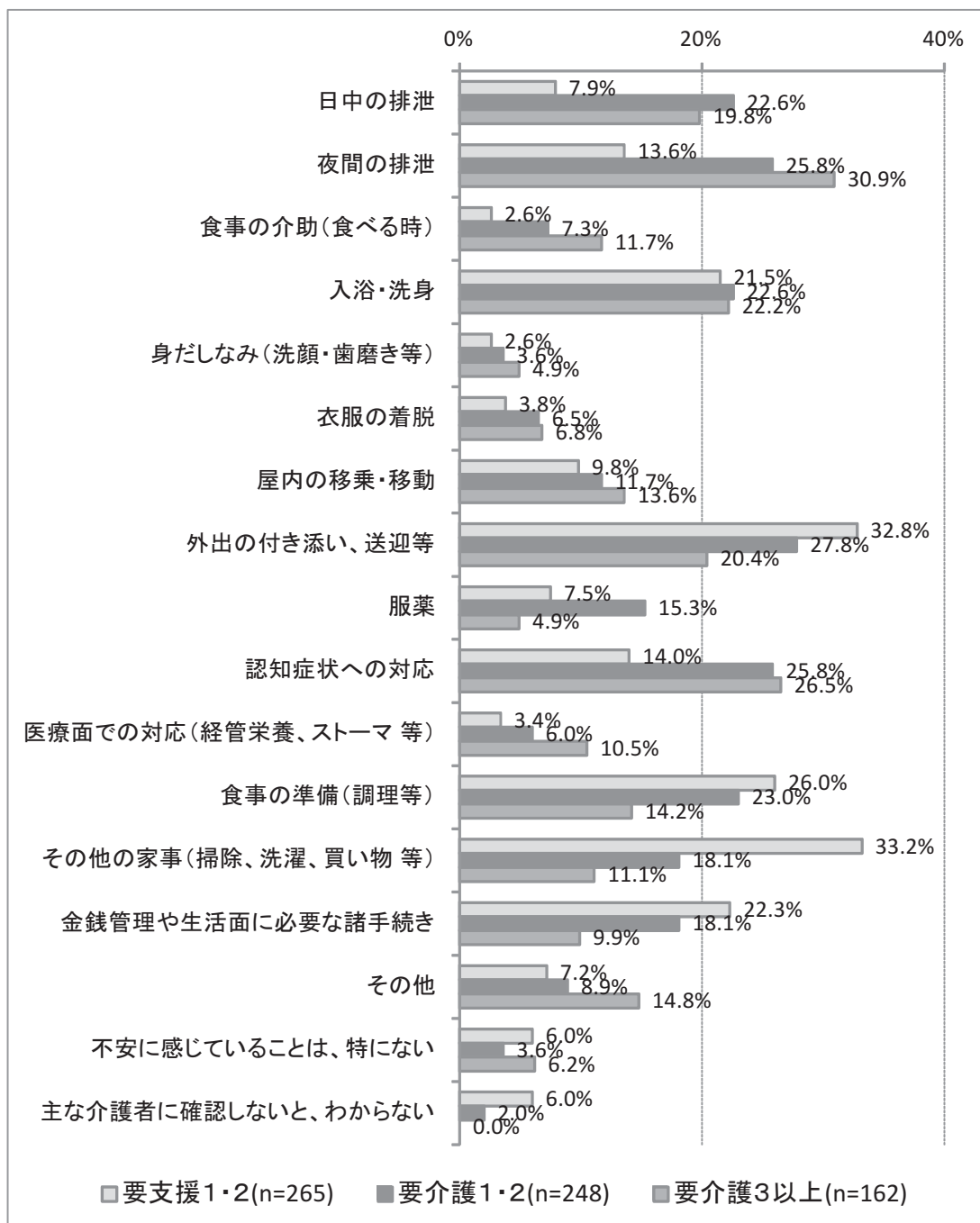
④不安を感じる介護等

「外出の付き添い、送迎等」が32.0%で最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が28.0%、「食事の準備（調理等）」が27.2%となっています。



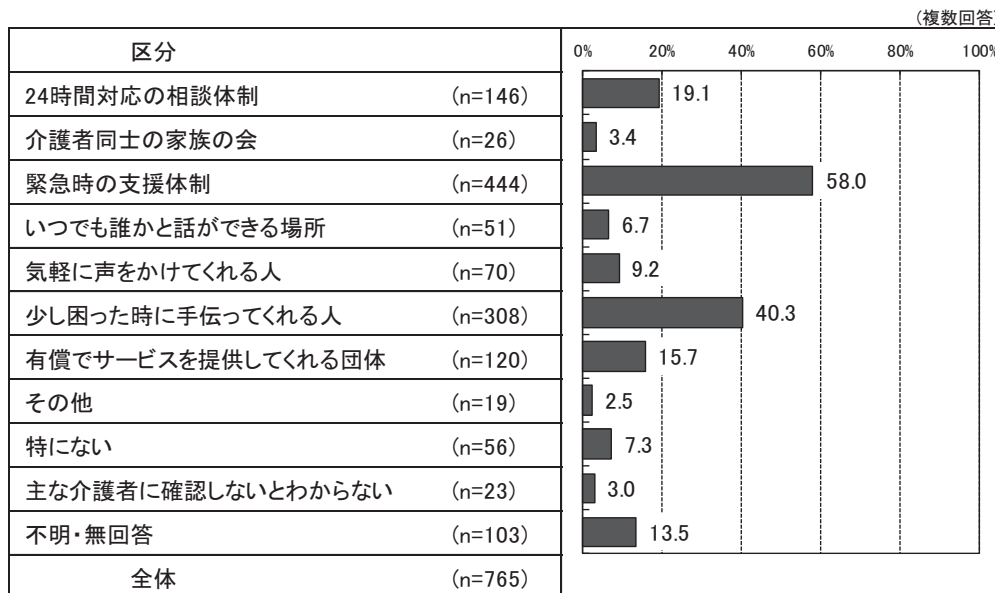
要支援1・2では「その他の家事（掃除，洗濯，買い物等）」（33.2%），要介護1・2では「外出の付き添い，送迎等」（27.8%），要介護3以上では「夜間の排泄」（30.9%）に係る介護者不安が大きくなっています。

■要介護度別



⑤必要と感じる地域での支援

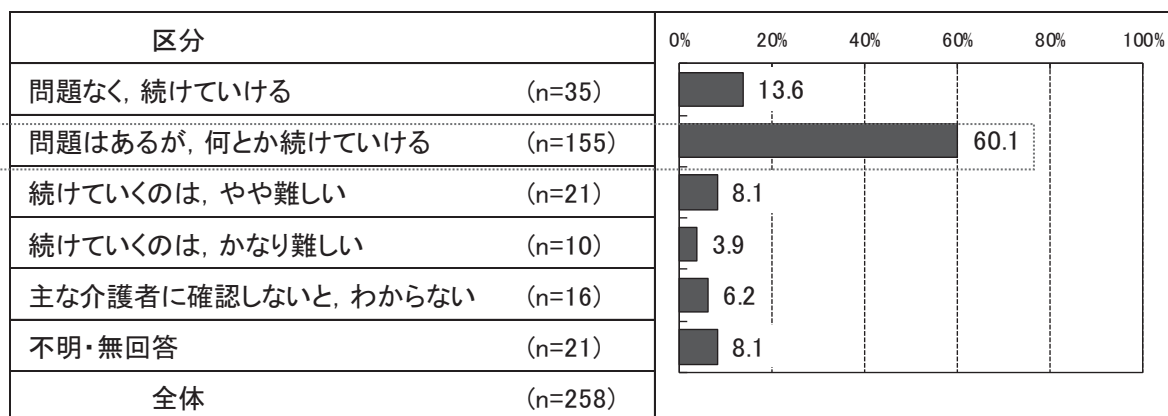
「フルタイム」または「パートタイム」で働いている方のうち「緊急時の支援体制」が58.0%で最も多く、次いで「少し困った時に手伝ってくれる人」が40.3%、「24時間対応の相談体制」が19.1%となっています。



⑥今後の介護離職の可能性

(「フルタイム」または「パートタイム」で働いている方)

「問題はあるが、何とか続けていける」が60.1%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が13.6%、「続けていくのは、やや難しい」が8.1%となっています。



■ 詳細分析

「問題はあるが、何とか続けていける」を回答した人において、不安を感じる介護等をみると、「夜間の排泄」(36.1%)や「入浴・洗身」(31.6%)が多くなっています。「不安を感じる介護等」の全体の回答(P.48, 下段)に比べ、「夜間の排泄」と「入浴・洗身」の回答割合が高まっています。

また、「問題はあるが、何とか続けていける」を回答した人において、必要と感じる地域での支援をみると、「緊急時の支援体制」(69.7%)、「少し困った時に手伝ってくれる人」(49.0%)、「24 時間対応の相談体制」(27.1%)が多くなっています。「必要と感じる地域での支援」の全体の回答割合(P.50, 上段)に比べ、上位3は変わりませんが、それぞれ回答割合が高まっています。

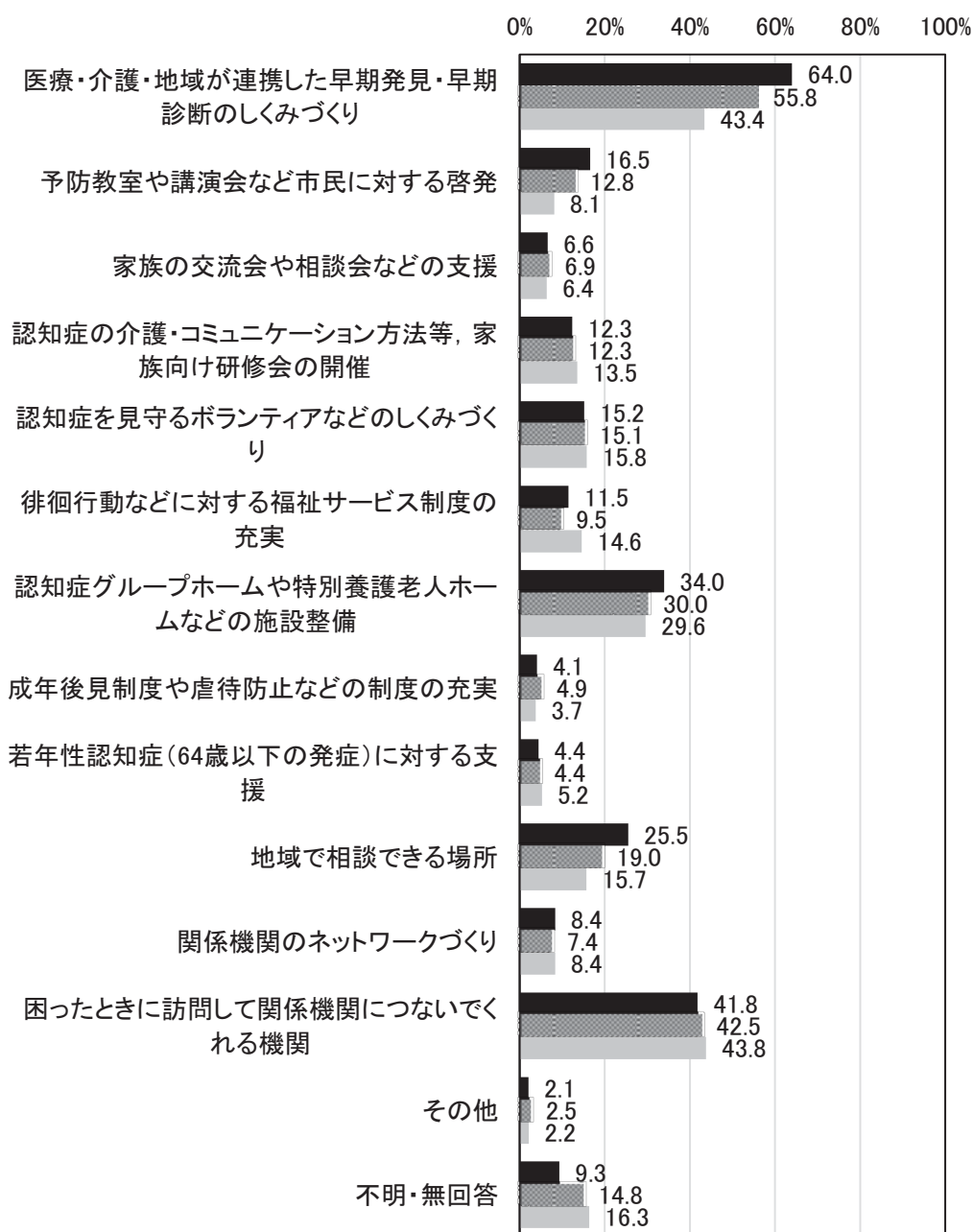
(3) 各調査における共通設問

①認知症施策として、市が力を入れるべきこと

一般高齢者は、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が64.0%で最も多く、次いで「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関」が41.8%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」が34.0%となっています。

要支援認定者は、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が55.8%で最も多く、次いで「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関」が42.5%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」が30.0%となっています。

要支援・要介護認定者は、「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関」が43.8%で最も多く、次いで「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が43.4%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」が29.6%となっています。



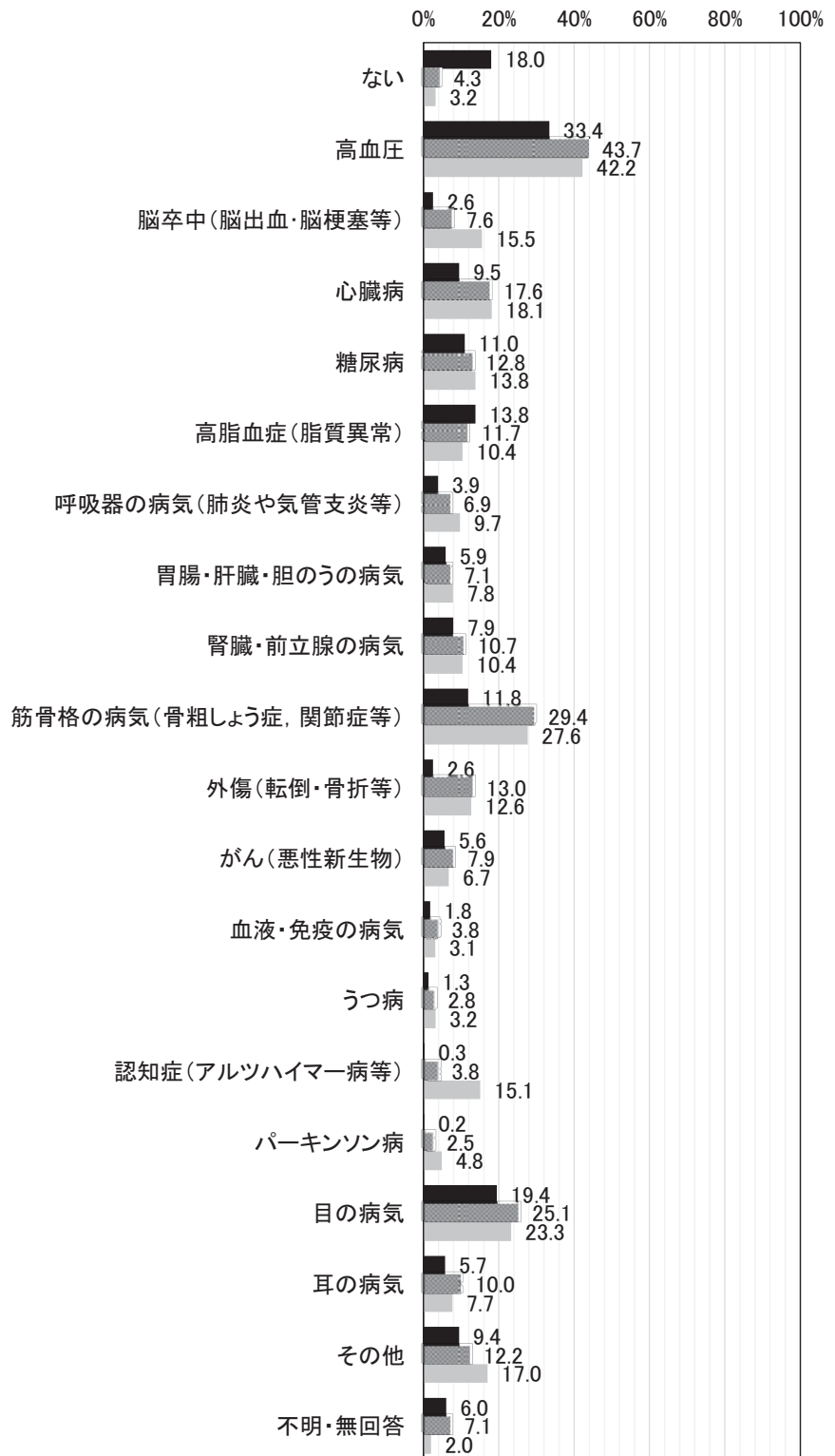
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)
- 在宅介護実態調査「要支援・要介護認定者」(n=1,281)

②現在治療中、または後遺症のある病気

一般高齢者は、「高血圧」が33.4%で最も多く、次いで「目の病気」が19.4%、「ない」が18.0%となっています。

要支援認定者は、「高血圧」が43.7%で最も多く、次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が29.4%、「目の病気」が25.1%となっています。

要支援・要介護認定者は、「高血圧」が42.2%で最も多く、次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が27.6%、「目の病気」が23.3%となっています。



- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)
- 在宅介護実態調査「要支援・要介護認定者」(n=1,281)

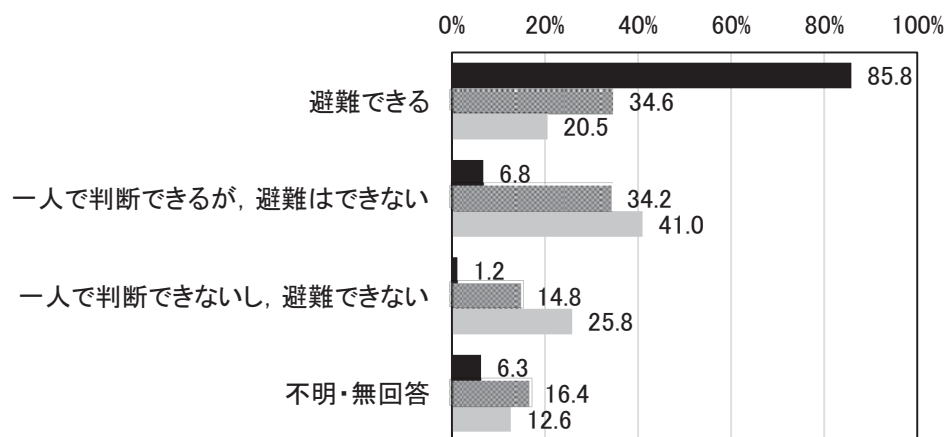
③災害時や緊急時の対応

(1)緊急時等の一人での避難

一般高齢者は、「避難できる」が85.8%で最も多く、次いで「一人で判断できるが、避難はできない」が6.8%、「一人で判断できないし、避難できない」が1.2%となっています。

要支援認定者は、「避難できる」が34.6%で最も多く、次いで「一人で判断できるが、避難はできない」が34.2%、「一人で判断できないし、避難できない」が14.8%となっています。

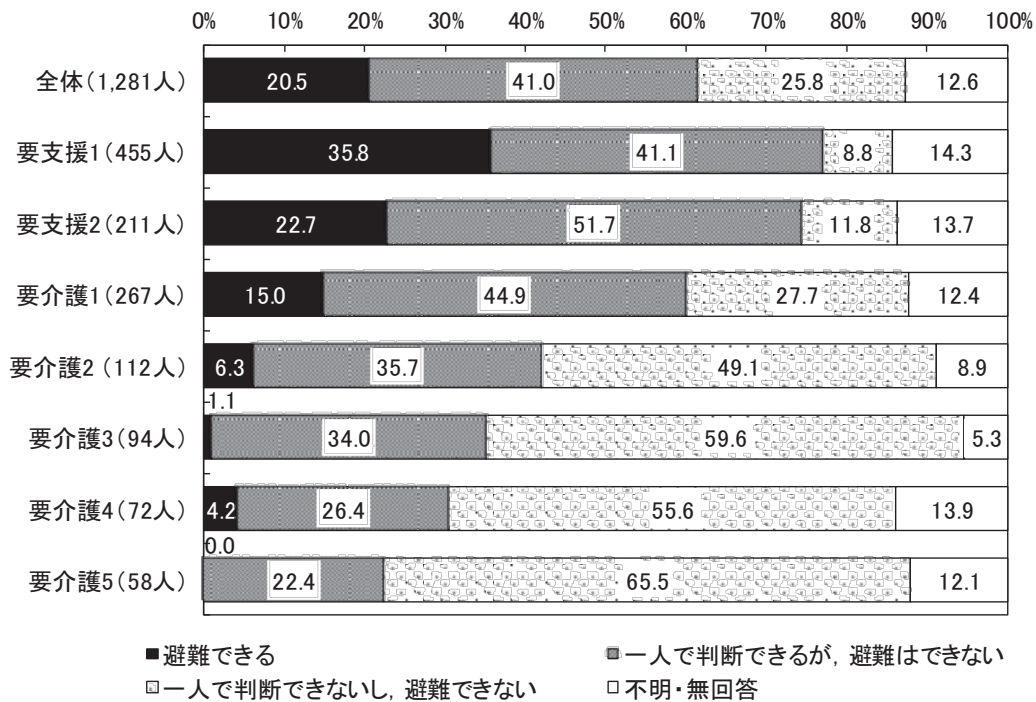
要支援・要介護認定者は、「一人で判断できるが、避難はできない」が41.0%で最も多く、次いで「一人で判断できないし、避難できない」が25.8%、「避難できる」が20.5%となっています。



- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)
- 在宅介護実態調査「要支援・要介護認定者」(n=1,281)

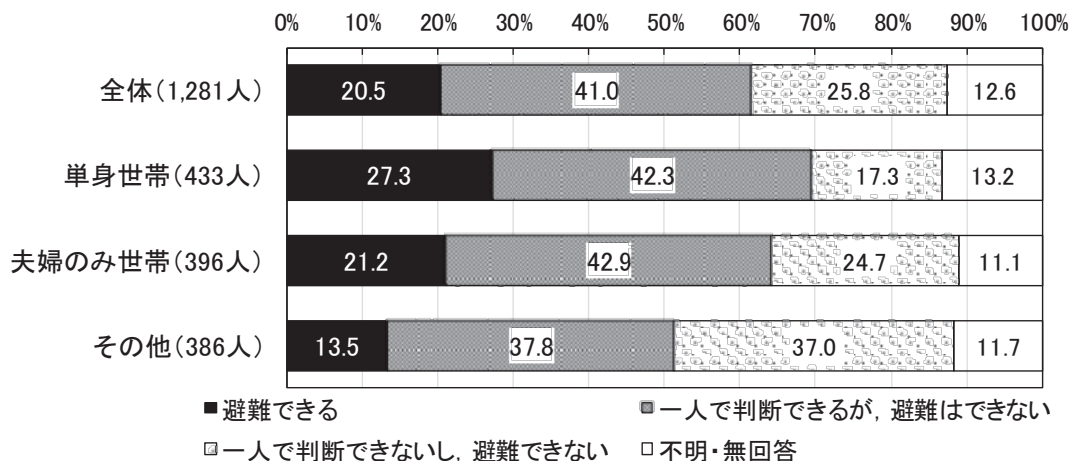
要支援・要介護認定者において、要介護度別にみると、要介護度が上がるほど避難できない人（「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人で判断できないし、避難できない」との合計）は、おおむね増える傾向にあります。

■要介護度別（要支援・要介護認定者）



要支援・要介護認定者において、家族構成別にみると、単身世帯では、避難できない人（「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人で判断できないし、避難できない」との合計）は59.6%，夫婦のみ世帯では67.7%となっています。

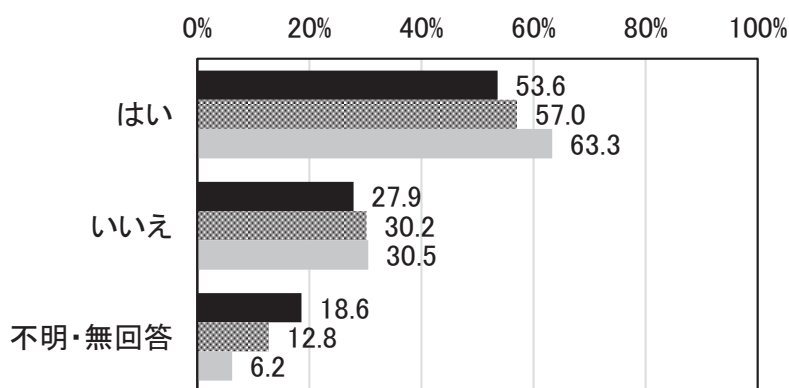
■家族構成別（要支援・要介護認定者）



(2) 緊急時等の手助けを頼める人の有無

(緊急時に一人で避難できない方)

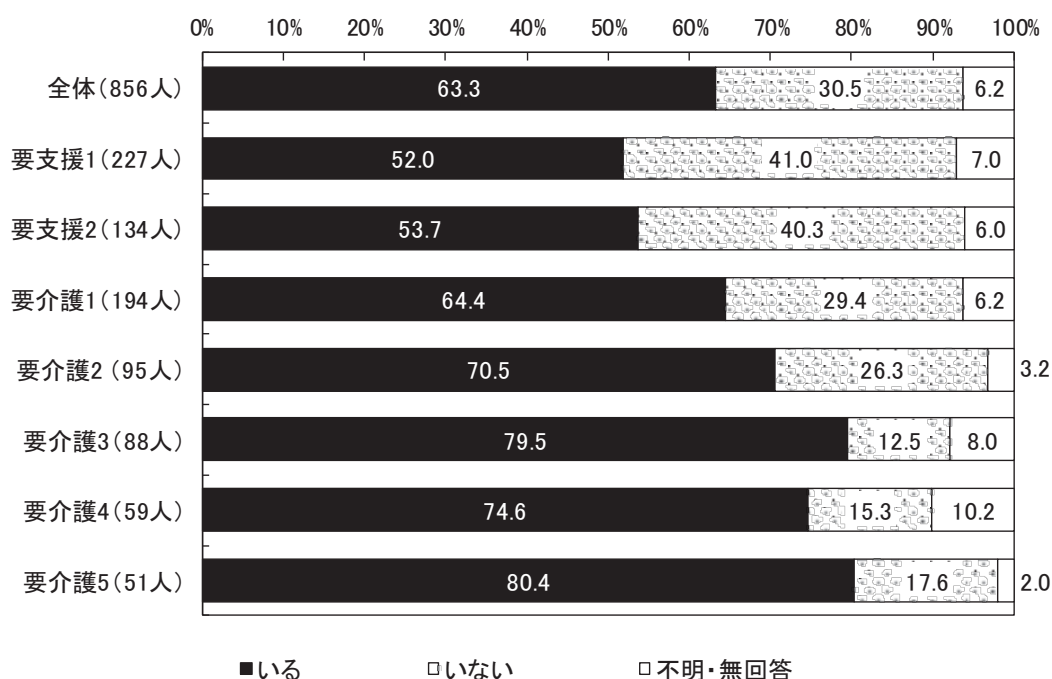
一般高齢者は、「はい」(いる)が53.6%、「いいえ」が27.9%となっています。
 要支援認定者は、「はい」(いる)が57.0%、「いいえ」が30.2%となっています。
 要支援・要介護認定者は、「いる」が63.3%、「いない」が30.5%となっています。



- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=140)
- ▨ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=298)
- 在宅介護実態調査「要支援・要介護認定者」(n=856)

要支援・要介護認定者において、要介護度別にみると、要介護度が上がるほど緊急時等の手助けを頼める人がいない人は、おおむね減る傾向にあります。

■ 要介護度別 (要支援・要介護認定者)



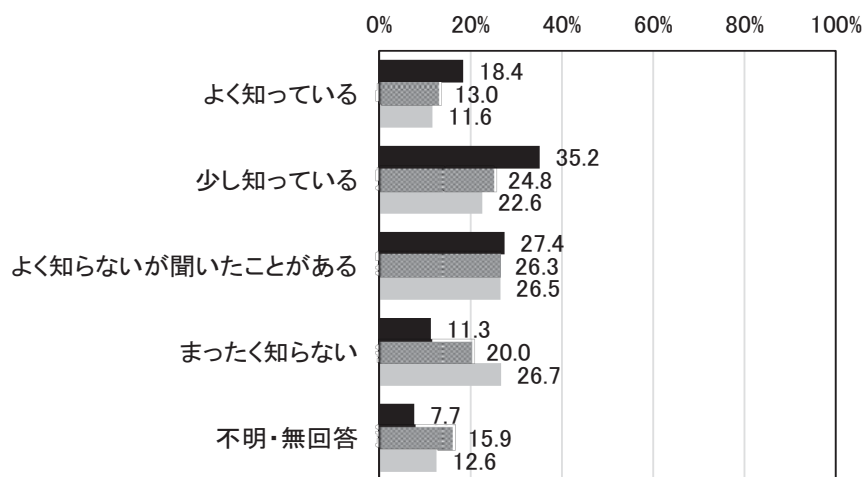
④権利擁護の取り組みについて

(1)成年後見人制度の認知状況

一般高齢者は、「少し知っている」が35.2%で最も多く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が27.4%、「よく知っている」が18.4%となっています。

要支援認定者は、「よく知らないが聞いたことがある」が26.3%で最も多く、次いで「少し知っている」が24.8%、「まったく知らない」が20.0%となっています。

要支援・要介護認定者は、「まったく知らない」が26.7%で最も多く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が26.5%、「少し知っている」が22.6%となっています。



- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)
- 在宅介護実態調査「要支援・要介護認定者」(n=1,281)

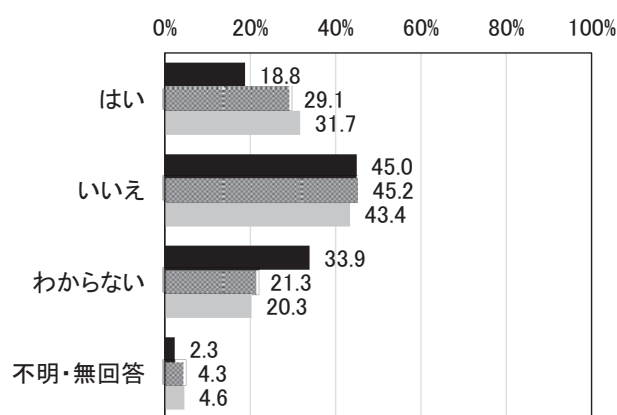
(2) 成年後見人制度の利用意向

(成年後見制度を知っている方)

一般高齢者は、「いいえ」(したくない)が45.0%で最も多く、次いで「わからない」が33.9%、「はい」が18.8%となっています。

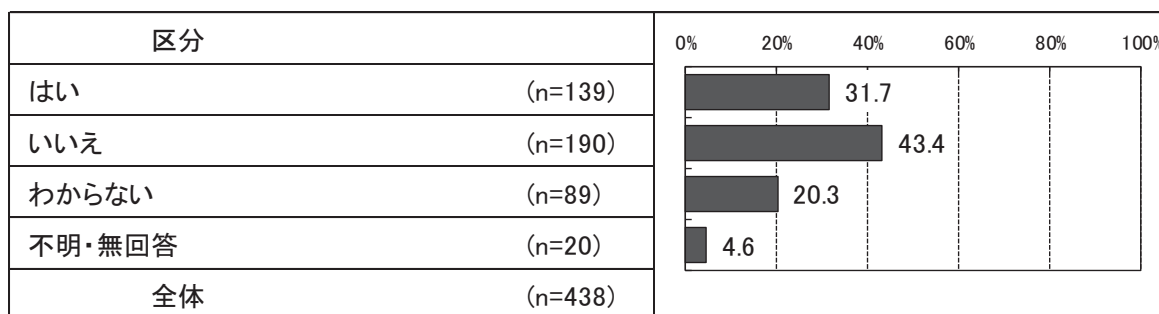
要支援認定者は、「いいえ」(したくない)が45.2%で最も多く、次いで「はい」が29.1%、「わからない」が21.3%となっています。

要支援・要介護認定者は、「いいえ」(したくない)が43.4%で最も多く、次いで「はい」が31.7%、「わからない」が20.3%となっています。

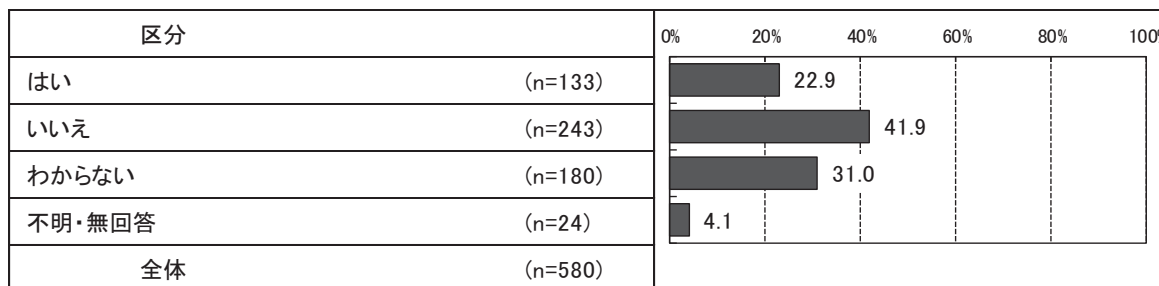


- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=943)
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=230)
- 在宅介護実態調査「要支援・要介護認定者」(n=438)

要支援・要介護認定者について、前回調査（平成26年実施）と比較すると、前回調査では、「わからない」が「はい」を上回っていましたが、本調査では逆転し、「はい」が「わからない」を上回っています。成年後見制度の利用意向が増加したといえます。



■ 前回調査（平成26年実施）



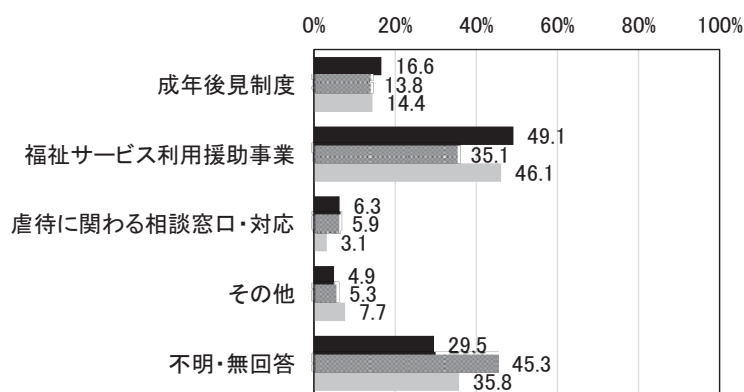
⑤ 高齢者の権利擁護について知りたいこと

一般高齢者は、「福祉サービス利用援助事業」が49.1%で最も多く、次いで「成年後見制度」が16.6%、「虐待に関わる相談窓口・対応」が6.3%となっています。

要支援認定者は、「福祉サービス利用援助事業」が35.1%で最も多く、次いで「成年後見制度」が13.8%、「虐待に関わる相談窓口・対応」が5.9%となっています。

要支援・要介護認定者は、「福祉サービス利用援助事業」が46.1%で最も多く、次いで「成年後見制度」が14.4%、「その他」が7.7%となっています。

要支援・要介護認定者は、「福祉サービス利用援助事業」が46.1%で最も多く、次いで「成年後見制度」が14.4%、「その他」が7.7%となっています。



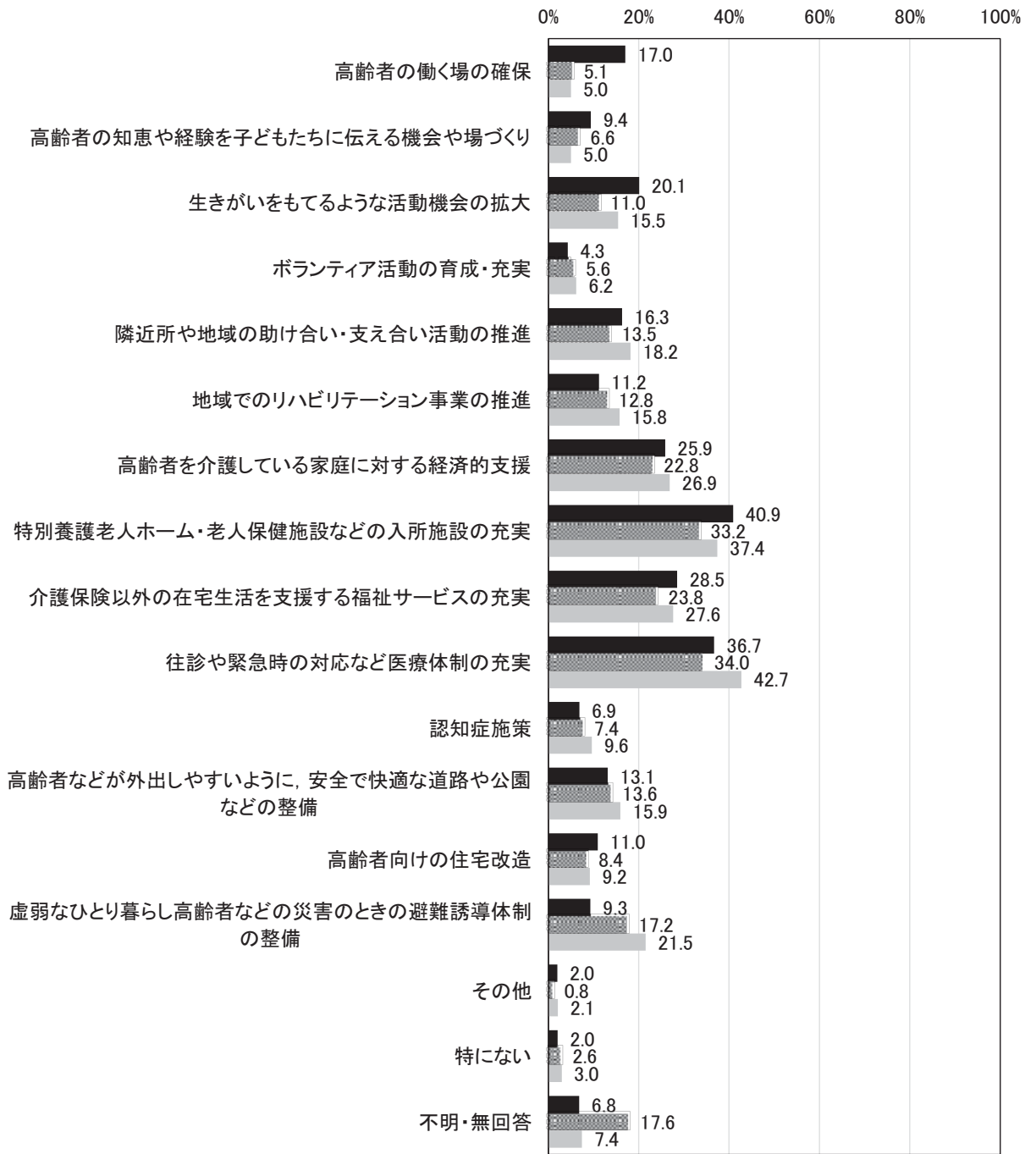
- 介護予防・日常生活圏ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
- 介護予防・日常生活圏ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)
- 在宅介護実態調査「要支援・要介護認定者」(n=1,281)

⑥高齢化施策として、市が力を入れるべきこと

一般高齢者は、「特別養護老人ホーム・老人保健施設などの入所施設の充実」が 40.9%で最も多く、次いで「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が 36.7%、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が 28.5%となっています。

要支援認定者は、「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が 34.0%で最も多く、次いで「特別養護老人ホーム・老人保健施設などの入所施設の充実」が 33.2%、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が 23.8%となっています。

要支援・要介護認定者は、「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が 42.7%で最も多く、次いで「特別養護老人ホーム・老人保健施設などの入所施設の充実」が 37.4%、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が 27.6%となっています。



■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「一般高齢者」(n=1,760)
 ■ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査「要支援認定者」(n=609)
 ■ 在宅介護実態調査「要支援・要介護認定者」(n=1,281)

高齢社会への対応として市が力を入れるべきこととして、「高齢者の働く場の確保」と回答した人を一般高齢者調査について年齢別にみると、65～69歳の割合が高く、労働意欲が高いことがうかがわれます。地域別にみると、潮見が最も多くなっています。

■ 年齢別，地域別（一般高齢者）

